(2016) MAU FACTBOOK

02 INTRODUCTION

ABOUT MUSASHINO ART UNIVERSITY

04 HISTORY

06 ORGANIZATION CHART

08 STUDENTS

10 EXAMINATION RESULTS

12 ADMISSION FEE AND TUITION

14 SCHOLARSHIPS

16 CAREER SUPPORT

19 TEACHER EDUCATION

20 INTERNATIONAL RELATIONS

23 RESEARCH AND COLLABORATION

27 STUDENT LIFE

29 MUSEUM & LIBRARY

30 FACILITIES

32 FACULTY AND STAFF

ANNUAL REPORT

FINANCIAL SUMMARY

47 ACCESS

MAU

COPYRIGHT © MUSASHINO ART UNIVERSITY ALL RIGHTS RESERVED.

MUSASHINO ART UNIVERSITY

MUSASHINO ART UNIVERSITY FACTBOOK

CONTENTS

02 はじめに

学校法人の概要

04 沿革
06 組織図
08 学生数
10 入試結果
12 学生納付金
14 奨学金
16 進路・就職
19 教職関連
20 国際交流
23 研究・社会貢献
27 学生生活
29 美術館・図書館
30 施設・組織
32 教職員・役員

事業の概要

36 2016(平成28)年度事業報告
37 教育研究組織の改編等
37 教育環境充実に向けたキャンパス整備
38 美術館・図書館機能の充実
国際化の推進
39 学生支援の充実・強化
40 研究支援・社会連携推進、美術教育の普及、美術文化の振興
広報活動の強化
41 組織力の強化
その他の主な取組

財務の概要

44 経年比較
46 主な財務比率比較

47 交通アクセス

学校法人武蔵野美術大学 2016年度ファクトブック

本冊子の対象期間は2016年4月1日～2017年3月31日です。一部、左記期間以外の事業についても掲載しています。

はじめに / INTRODUCTION

学校法人武蔵野美術大学 理事長
天坊昭彦（てんぼう・あきひこ）

1939年生まれ。1964年東京大学経済学部経営学科卒業。同年出光興産株式会社入社。同社常務取締役、専務取締役を経て、2002年に同社代表取締役社長。石油連盟会長、同社代表取締役会長を歴任し、現在同社顧問。2010年より学校法人武蔵野美術大学理事、評議員を経て、2012年理事長に就任。

武蔵野美術大学 学長
長澤忠徳（ながさわ・ただのり）

1953年生まれ。1978年武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業。1981年Royal College of Art, London修士課程修了、MA（RCA）取得。1999年武蔵野美術大学造形学部デザイン情報学科教授に就任し、2015年に学長、学校法人武蔵野美術大学理事に就任。有限会社長澤忠徳事務所代表取締役。2016年Royal College of Artより、日本人で初めてシニアフェローの称号を授与される。

武蔵野美術大学は、本学の前身である帝国美術学校が1929年に創立されて以来、「教養を有する美術家養成」を理念とし、「真に人間的自由に達するような美術教育」を掲げた建学の精神を堅持し続けながら、我が国を代表する私立の美術系総合大学として、これまでに6万7千人以上の卒業生を輩出してきました。単に芸術家を育てるのではなく、教養ある専門家としての人間力や伝達力を高め、表現力、語学力を兼ね備えた人材の育成を目指して、広く諸学問を学ぶ「文化総合科目」や学生が自身の専門と異なる領域を実習する「造形総合科目」など、特色のあるカリキュラムを実施し、国内外の様々な大学との学術交流や産官学共同プロジェクトを数多く展開するなど、建学の精神にふさわしい総合的、横断的な教育システムを築き上げて現在に至ります。

また、帝国美術学校時代から積極的かつ先進的に取り組んできた国際交流活動においては、2012年に文部科学省による「スーパーグローバル大学等事業―経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援―（旧グローバル人材育成推進事業）」で芸術系大学唯一の採択校となり、語学教育をはじめとする多彩な専門教育プログラムも展開しています。

近年、都市計画道路「小平3・3・3号線」の区画整理計画により、鷹の台キャンパスが南北に分断されることとなり、吉祥寺を発祥の地とする本学が1961年に鷹の台校を開いて以来の大きな転機を迎えましたが、2014年に北側校地へのグラウンド移転、2016年には14号館（デザイン工房棟）が竣工し、南北2つの特色あるキャンパスで新たな学びも始まっています。

少子高齢化に伴う社会構造の変化、高度情報化による業態の変容、さらに初等・中等教育における図画工作科・美術科の時間数削減の影響と、美術大学を取り巻く状況は厳しさを増していますが、2019年に創立90周年を控え、来たるべき100周年を迎えるための重要な改革期にある本学は、2014年に第1次中長期計画を策定し、「美術、デザインを専門とする大学として高い教育・研究力を発揮し、専門性と豊かな教養を備えた人材を育成するとともに、学術・文化を世界に発信する拠点としての地位を確立すること」を目標に、国内はもとより国際社会に貢献する大学として、教育環境のさらなる整備を推進しています。

従来の社会システムが行き詰まりを見せている現代にこそ必要なのが、美術大学で行われている教育であり、既存の答えが用意されていない未知の諸困難に創造的解決をつくり上げていける柔らかな知性の開拓です。今回、新たに刊行するこの冊子を通じて、本学の教育・研究、国際交流、社会貢献等の取り組みや施策の現状をご理解いただき、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

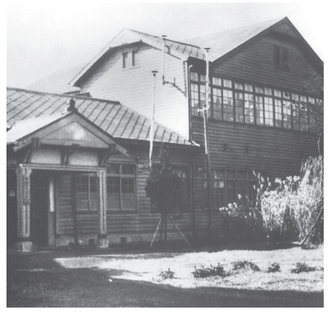
ABOUT MUSASHINO ART UNIVERSITY

学校法人の概要

沿革

帝国美術学校開校

美術史家の金原省吾、名取堯が中心となり、帝国美術学校を開校。（開校校主：木下成太郎、校長：北昤吉）日本画科、西洋画科、工芸図案科が置かれ、気鋭の作家・デザイナー、各分野の専門の研究者が教職員に招かれた



帝国美術学校校舎（1930年頃）

鷹の台キャンパス（1961年）

武蔵野美術大学開学式（1962年）

学校法人武蔵野美術学校を学校法人武蔵野美術大学と改称。武蔵野美術大学が設置され、国内で初めて「造形」という名の学部が開設される。造形学部には美術学科（日本画・油絵・彫刻専攻）、産業デザイン学科（商業デザイン・工芸工業デザイン・芸能デザイン専攻）が置かれ、別科実技専修科も開設。（学長：有光次郎）

武蔵野美術大学設置

1929 昭和4年
- 帝国美術学校開校

1930 昭和5年
- 校歌制定（作詞：北原白秋、作曲：小松耕輔）。中国、台湾の留学生がこの年に、翌年には朝鮮の留学生が入学。帝国美術学校の自由かつ新たな画風を、アジアに発信し始める

1931 昭和6年
- 彫刻科、師範科設置

1935 昭和10年
- 同盟休校事件により、帝国美術学校と多摩帝国美術学校（現多摩美術大学）に分裂。帝国美術学校は新校舎で授業を再開する

1947 昭和22年
- 造型美術学園に校名を変更（学園長：山脇巌）

1948 昭和23年
- 武蔵野美術学校に校名変更。（校長：名取堯）日本画科、西洋画科、彫刻科、工芸図案科が置かれる

1951 昭和26年
- 西洋画科通信教育部を開設し、夏期スクーリングを開始。準学校法人として学校法人武蔵野美術学校が認可される

1956 昭和31年
- 田中誠治理事長就任

1957 昭和32年
- 学校法人武蔵野美術学校認可。（理事長：田中誠治、校長：名取堯）武蔵野美術短期大学（美術科）設置。（学長：有光次郎）

1959 昭和34年
- 短期大学に通信教育部を開設

1961 昭和36年
- 鷹の台校（現鷹の台キャンパス）開設。短期大学の分校として使用が始まる

1962 昭和37年
- 美術資料図書館竣工、開館。造形学部に基礎デザイン学科開設

1963 昭和38年
- 世界芸術都市（パリ）の創立に創立会員として参加

1964 昭和39年
- 建築家養成のニーズに応え、造形学部産業デザイン学科に建築デザイン専攻を開設。翌年には建築学科として独立する

1965 昭和40年
- 「パリ賞」を制定し、卒業生の留学・研究の助成を強化

1967 昭和42年
- 鷹の台校に全学統合。吉祥寺に武蔵野美術学園を開設。（学園長：清水多嘉示）

1969 昭和44年
- 久保義三学長就任

1971 昭和46年
- 造形学部美術学科、産業デザイン学科の各専攻を日本画・油絵・彫刻・視覚伝達デザイン・工芸工業デザイン・芸能デザイン（現空間演出デザイン）学科に独立させる

1973 昭和48年
- 造形学部の外国人入学試験制度発足

1974 昭和49年
- 米澤嘉圃学長就任

1978 昭和53年

1979 昭和54年
- 創立50周年記念式典挙行。『武蔵野美術50年の歩み』刊行

1983 昭和58年

鷹の台校バリケード封鎖（1969年）

武蔵野美術学園の授業風景（1979年）

大学院開設

造形専攻科を廃止し、大学院造形研究科（修士課程）を開設。二つの専攻で構成され、美術専攻には日本画・油絵・彫刻コース、デザイン専攻には商業デザイン（現視覚伝達デザイン）・工芸工業デザイン・芸能デザイン（現空間演出デザイン）・建築・基礎デザイン（現基礎デザイン学）コースが置かれた

建学の精神・教育理念

武蔵野美術大学の教育理念は、1929（昭和4）年10月30日、本学の前身である帝国美術学校の創立に由来するものです。
帝国美術学校の創立に寄与し、後にその経営と教育の中心となった金原省吾（開校時学監）の手記には「教養を有する美術家養成」と記されています。また、創立時の中心人物の一人、名取堯（開校時主事）の『武蔵野美術』（創立三〇周年記念特集）に寄せられた30年の回顧には、「人間が人間になる道は激しい鍛錬、たゆまざる精進の中にあって、放任の中にはない、その框（わく）を固定させず、しかも、放縦に任せず、真に人間的自由に達するような美術教育への願い」であると語られており、美術を技術的専門性だけではなく、総合的な人間形成をもって成るものと考えたのです。
このように、まさに人間的自由に達するために美術・デザインを追求することこそが、本学の教育理念であると言うことができ、国内美術大学では最大規模の造形教育の大学となった現在も、この教育理念を継承し堅持しています。

シンボルについて

「美」の一文字をモチーフにした本学のシンボルマーク（美マーク）は、帝国美術学校時代に定められました。1996（平成8）年に勝井三雄本学名誉教授が考案した「MAU」ロゴとともに、「教養を有する美術家養成」「真に人間的自由に達するような美術教育」という建学の精神を、現在も変わることなく表しています。

14号館のガラス工房（2016年）

鷹の台キャンパスで14号館が竣工。都道3・3・3の開通（2017年）により、鷹の台キャンパスは南キャンパスと北キャンパスに再編成される

鷹の台キャンパス再編

1986 昭和61年
- 田中誠治理事長死去。田代宗光理事長就任、水尾博学長就任

1987 昭和62年

1988 昭和63年
- 武蔵野市吉祥寺に「ギャラリーαM」を開設（2009年、東京・馬喰町にノンプロフィットギャラリー「gallery αM」として移転）。武蔵野美術短期大学を武蔵野美術大学短期大学部に校名変更。大学院造形研究科美術専攻に造形学（現造形理論・美術史）コース、造形学部空間演出デザイン学科にファッションデザインコースが開設される

1989 昭和64年 平成元年
- 大学院造形研究科美術専攻に版画コースを開設

1990 平成2年
- 造形学部に映像学科を開設

1991 平成3年
- 創立60周年。記念企画展として「現代デザインの水脈；ウルム造形大学展」（新宿朝日生命ギャラリー）、「造形と創造の明日へ」開催（新宿NSビル）を開催

1994 平成6年
- 大学院造形研究科デザイン専攻に映像コースを開設。中国美術学院と最初の交流協定を締結。前田常作学長就任

1995 平成7年
- 短期大学部（通信教育課程を含む）学生募集停止。造形学部に芸術文化学科、デザイン情報学科を開設。長尾重武学長就任

1999 平成11年

2000 平成12年
- 久保義三理事長就任

2002 平成14年
- 前田常作理事長就任

2003 平成15年
- 大学院造形研究科に博士後期課程造形芸術専攻を開設。新宿サテライト開設

2004 平成16年
- イメージライブラリーの開設準備を開始（全学向けオープンは1993年）。『武蔵野美術大学六〇年史』刊行。創立60周年記念館（現12号館）竣工

2006 平成18年
- 大学院造形研究科修士課程デザイン専攻に写真コースを開設。造形学部油絵学科に油絵専攻と版画専攻を設置。『武蔵野美術大学短期大学部47年の系譜』刊行

2007 平成19年
- 大学院造形研究科美術専攻に芸術文化政策コース、デザイン専攻にデザイン情報学コースを開設。武蔵野美術大学短期大学部を廃止。小池晴二理事長就任

2008 平成20年
- 造形学部通信教育課程（4年制）開設

2009 平成21年
- 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択を得て、造形学研究の高度化を進める造形研究センターを開設

2010 平成22年
- 鷹の台校美術資料図書館新棟竣工。美術資料図書館を美術館・図書館に名称変更

2011 平成23年
- 高井邦彦理事長就任、甲田洋二学長就任

2012 平成24年
- 美術館棟リニューアル開館

2013 平成25年
- 港区赤坂に「デザイン・ラウンジ」を開設。天坊昭彦理事長就任

2015 平成27年
- 長澤忠徳学長就任

2016 平成28年
- 東京工業大学と教育研究交流に関する協定を締結

2017 平成29年
- 1月末の新宿サテライト閉室に伴い、通信教育課程週末スクーリングの教室や、公開講座、インフォメーションなど、本学と社会を結ぶ拠点となる三鷹ルームを武蔵野市に設置

鷹の台キャンパス（2010年）

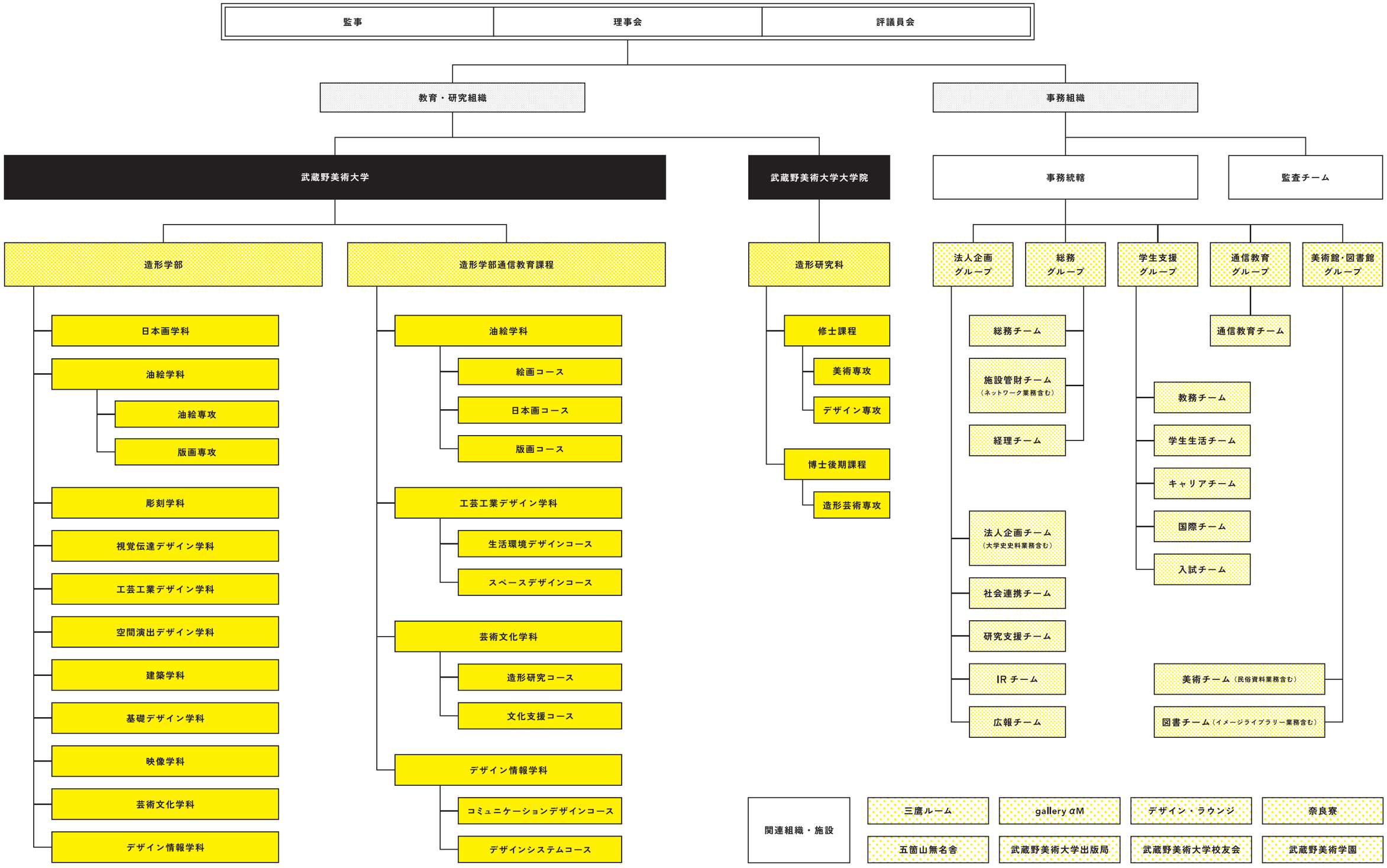
国際デザインシンポジウムの様子（2009年）

80周年記念事業

有楽町朝日ホールにおいて、創立80周年記念式典を挙行。世界美術大学学長サミット「美術大学の時代的、社会的意義と使命：生きる、をつくる。つくる、を生きる。」や国際デザインシンポジウム「21世紀高度デザイン教育の展望 ― 美術大学が拓く新たなるデザイン教育へ ―」など、多くの記念行事を催し、80周年記念誌『武蔵野美術大学のあゆみ1929-2009』も刊行された

組織図

ORGANIZATION CHART



◎ 武蔵野美術大学（2016年5月1日現在）

大学院 造形研究科 修士課程

専攻	コース	収容定員	1年次	2年次	学生数	収容定員充足率
美術専攻	日本画コース		12	8	20	
	油絵コース		30	21	51	
	版画コース		8	6	14	
	彫刻コース		11	10	21	
	造形理論・美術史コース		2	0	2	
	芸術文化政策コース		4	4	8	
	小計	56	67	49	116	2.07
デザイン専攻	視覚伝達デザインコース		7	10	17	
	工芸工業デザインコース		16	13	29	
	空間演出デザインコース		6	3	9	
	建築コース		13	17	30	
	基礎デザイン学コース		8	4	12	
	映像コース		5	13	18	
	写真コース		5	6	11	
	デザイン情報学コース		2	2	4	
	小計	56	62	68	130	2.32
合計		112	129	117	246	2.20

※2年次生には、修了延期者を含む。

大学院 造形研究科 博士後期課程

専攻	収容定員	1年次	2年次	3年次	学生数	収容定員充足率
造形芸術専攻	18	3	1	5	9	0.50

造形学部 通学課程

学科・専攻		収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	学生数	収容定員充足率
日本画学科		160	43	42	40	35	160	1.00
油絵学科	油絵専攻		126	125	126	130	507	
	版画専攻		27	19	27	33	106	
	小計	584	153	144	153	163	613	1.05
彫刻学科		132	37	37	37	37	148	1.12
視覚伝達デザイン学科		422	109	105	116	120	450	1.07
工芸工業デザイン学科		556	139	139	149	156	583	1.05
空間演出デザイン学科		500	131	129	121	136	517	1.03
建築学科		330	87	87	83	84	341	1.03
基礎デザイン学科		302	81	82	78	82	323	1.07
映像学科		350	89	89	99	97	374	1.07
芸術文化学科		326	91	81	76	91	339	1.04
デザイン情報学科		400	111	98	107	110	426	1.07
合計		4,062	1,071	1,033	1,059	1,111	4,274	1.05

※4年次生には、卒業延期者を含む。

造形学部 通信教育課程

学科・コース		収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	学生数	収容定員充足率
油絵学科	絵画コース		58	309	80	197	644	
	日本画コース		20	129	42	119	310	
	版画コース		6	35	21	76	138	
	小計	980	84	473	143	392	1,092	1.11
工芸工業デザイン学科	生活環境デザインコース		10	124	12	64	210	
	スペースデザインコース		19	59	14	38	130	
	小計	735	29	183	26	102	340	0.46
芸術文化学科	造形研究コース		4	31	22	55	112	
	文化支援コース		9	52	32	200	293	
	小計	490	13	83	54	255	405	0.83
デザイン情報学科	コミュニケーションデザインコース		39	255	20	106	420	
	デザインシステムコース		8	52	12	16	88	
	小計	735	47	307	32	122	508	0.69
合計		2,940	173	1,046	255	871	2,345	0.80

◎ 武蔵野美術学園（2016年5月1日現在）

科・コース		収容定員	課程			学生数
			基礎	専門	研究	
造形芸術科	絵画コース		10	16	44	70
	水彩・パステルコース		2	5	0	7
	彫刻コース		2	1	2	5
	日本画コース		6	5	9	20
	版画コース		4	2	1	7
	小計	210	24	29	56	109
メディア表現科	イラストレーションコース		11	5	4	20
	絵本コース		3	5	3	11
	小計	190	14	10	7	31
合計		400	38	39	63	140

◎ 造形学部

一般入学試験結果（男女別／卒業年度別）

学科	一般方式							センターA・B方式						
	募集人員	志願者数			合格者数			募集人員	志願者数			合格者数		
		男性	女性	2016年度卒	男性	女性	2016年度卒		男性	女性	2016年度卒	男性	女性	2016年度卒
日本画学科	26	20	110	79	4	28	15	10	14	92	66	3	11	7
油絵学科 油絵専攻	75	115	294	271	26	72	58	30	91	281	258	7	42	27
油絵学科 版画専攻	9	11	57	41	3	17	11	5	6	50	32	1	18	7
彫刻学科	14	23	33	40	6	15	12	9	22	38	37	4	14	8
視覚伝達デザイン学科	72	208	565	537	23	86	69	30	178	491	472	11	48	36
工芸工業デザイン学科	65	129	196	223	31	60	54	45	112	188	206	42	80	77
空間演出デザイン学科	55	51	224	217	23	104	93	35	35	202	189	15	95	82
建築学科	40	70	92	106	25	33	39	15	55	87	97	15	24	25
建築学科 センターB方式								15	80	115	125	21	39	32
基礎デザイン学科	35	77	267	237	20	60	53	22	63	210	187	18	51	39
基礎デザイン学科 センターB方式								8	58	104	110	14	16	20
映像学科	46	80	116	146	21	37	41	15	72	101	129	15	9	21
映像学科 センターB方式								5	59	63	84	6	9	11
芸術文化学科	27	44	78	79	14	36	32	10	34	66	65	17	34	32
芸術文化学科 センターB方式								15	51	100	86	17	47	32
デザイン情報学科	52	98	271	252	25	96	78	28	72	204	197	23	70	68
デザイン情報学科 センターB方式								10	77	130	134	19	30	34
合計	516	926	2,303	2,228	221	644	555	307	1,079	2,522	2,474	248	637	558

公募制推薦入学試験【前期（一般型）】

学科	募集人員	志願者数	一次合格者	二次合格者
日本画学科	4	19	19	7
油絵学科 油絵専攻	15	63	61	25
油絵学科 版画専攻	3	9	9	7
彫刻学科	5	12	12	6
工芸工業デザイン学科	20	34	30	21
空間演出デザイン学科	30	77	50	33
建築学科	10	30	30	15
基礎デザイン学科	8	22	22	10
映像学科 ディレクション資質重視型	8	26	26	8
映像学科 クリエーション資質重視型	8	43	43	8
芸術文化学科	12	30	30	21
デザイン情報学科	7	11	11	9
合計	130	376	343	170

公募制推薦入学試験【前期（英語力重視型）】

学科	募集人員	志願者数	一次合格者	二次合格者
工芸工業デザイン学科	3	4	2	2
映像学科	3	2	2	1
芸術文化学科	3	1	1	1
デザイン情報学科	3	6	6	4
合計	12	13	11	8

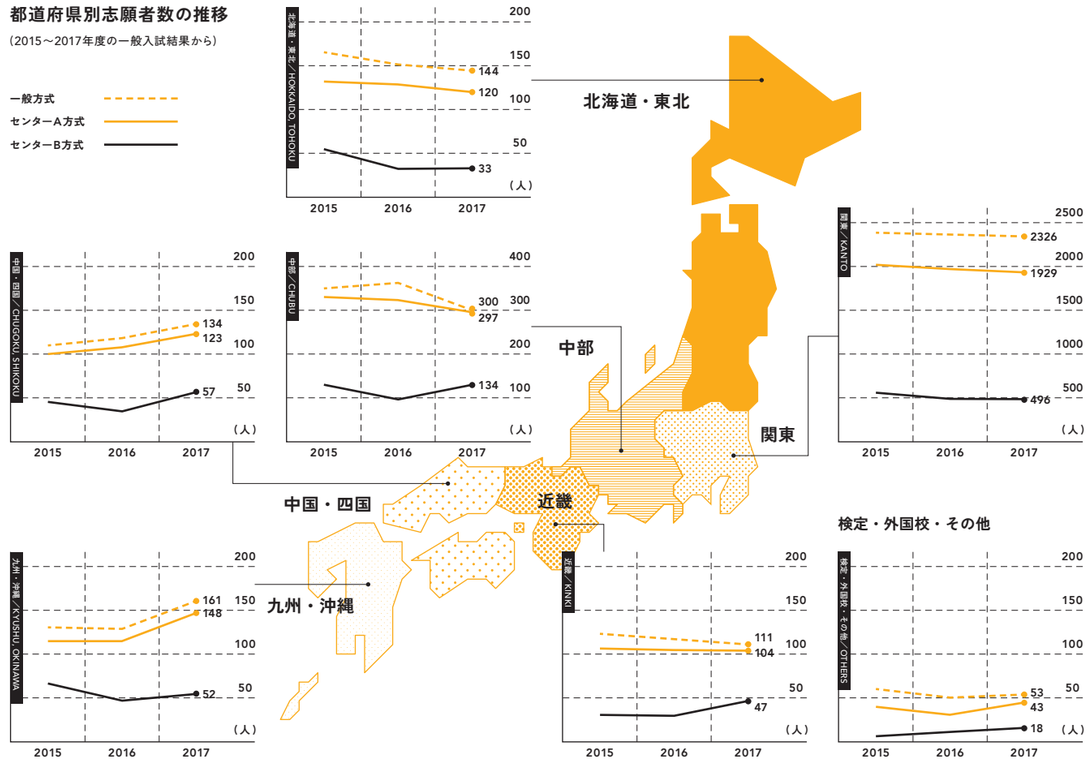
公募制推薦入学試験【後期】

学科	募集人員	志願者数	合格者
油絵学科 版画専攻	3	9	3
彫刻学科	5	7	4
合計	8	16	7

※ 10、11ページに掲載しているデータは、2016年9月から2017年2月に実施した入試結果です。その他の入試方式の結果は、本学webサイト（入試データ）でご確認ください。

都道府県別志願者数の推移

（2015～2017年度の一般入試結果から）



◎ 大学院造形研究科

修士課程入学試験結果

専攻・コース		募集人員	志願者数			合格者数		
			A日程	B日程	計	A日程	B日程	計
美術専攻	日本画コース	28	-	25	25	-	16	16
	油絵コース		-	35	35	-	21	21
	版画コース		-	11	11	-	9	9
	彫刻コース		-	13	13	-	12	12
	造形理論・美術史コース		2	3	5	0	1	1
	芸術文化政策コース		6	6	12	4	3	7
デザイン専攻	視覚伝達デザインコース	28	21	34	55	4	7	11
	工芸工業デザインコース		31	19	50	14	6	20
	空間演出デザインコース		-	18	18	-	6	6
	建築コース		10	14	24	5	4	9
	基礎デザイン学コース		-	27	27	-	8	8
	映像コース		29	-	29	10	-	10
	写真コース		16	-	16	7	-	7
	デザイン情報学コース		2	15	17	2	0	2
合計		56	117	220	337	46	93	139

学生納付金

◎ 大学院造形研究科

博士後期課程入学金及び授業料等

	前期分（入学手続時）	後期分（9月）
入学金（入学時のみ）	180,000円	―
授業料	592,500円	592,500円
維持費	15,000円	15,000円
施設費	150,000円	150,000円
合計	937,500円	757,500円
年間合計	1,695,000円 2年次以降 1,515,000円	

※ 入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料等が徴収されます。また、卒業年次には別途、校友会費（終身会費）が徴収されます。

修士課程入学金及び授業料等

	前期分（入学手続時）	後期分（9月）
入学金（入学時のみ）	180,000円	―
授業料	592,500円	592,500円
実習費（コースにより異なる）	14,750~32,750円	14,750~32,750円
維持費	15,000円	15,000円
施設費	150,000円	150,000円
合計	952,250~970,250円	772,250~790,250円
年間合計	1,724,500~1,760,500円 2年次以降 1,544,500~1,580,500円	

※ 実習費は、コースにより金額が異なります（下記は年額）。
日本画 33,000円、油絵・版画 52,500円、彫刻・映像・写真・デザイン情報学 65,500円、造形理論・美術史・芸術文化政策・空間演出デザイン・建築・基礎デザイン学 29,500円、視覚伝達デザイン 39,500円、工芸工業デザイン 57,500円
※ 入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料等が徴収されます。また、卒業年次には別途、校友会費（終身会費）が徴収されます。

◎ 造形学部通学課程

入学金及び授業料等

	前期分（入学手続時）	後期分（9月）
入学金（入学時のみ）	360,000円	―
授業料	592,500円	592,500円
実習費（学科により異なる）	14,750~32,750円	14,750~32,750円
維持費	15,000円	15,000円
施設費	150,000円	150,000円
合計	1,132,250~1,150,250円	772,250~790,250円
年間合計	1,904,500~1,940,500円 2年次以降 1,544,500~1,580,500円	

※ 実習費は、学科により金額が異なります（下記は年額）。
日本画 33,000円、油絵 52,500円、彫刻・映像・デザイン情報 65,500円、視覚伝達デザイン 39,500円、工芸工業デザイン 57,500円、空間演出デザイン・建築・基礎デザイン・芸術文化 29,500円
※ 入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料等が徴収されます。また、卒業年次には別途、校友会費（終身会費）が徴収されます。

科目等履修生

	一般	教職課程及び学芸員課程
登録料	45,000円	45,000円
受講料（講義）	34,500円	3,450円
受講料（実技演習）	69,000円	6,900円
実習費	3,500円	3,500円
教育実習費	―	10,000円
介護等体験費	―	14,000円
博物館実習費	―	21,000円
選考料	10,000円	10,000円

※ 受講料・実習費は1単位当たりの額。
※ 教職課程及び学芸員課程：本学の卒業生で教員免許取得及び学芸員資格取得を目的とする科目等履修生。
※ 教職課程及び学芸員課程の登録料は、本学大学院に在籍している者の場合、免除されます。
※ 別途、学生教育研究災害傷害保険料等が徴収されます。

委託学生

	委託学生 A	委託学生 B
登録料	45,000円	45,000円
受講料（講義）	34,500円	―
受講料（実技演習）	69,000円	―
受講料（1年以内）	―	592,500円
受講料（6か月以内）	―	296,250円
実習費	3,500円	実費
選考料	10,000円	10,000円

※ 委託学生 A：授業科目の受講を目的とする者。
※ 委託学生 B：受入研究室及び担当教員の指導に基づき、本人の研究テーマについて修学することを目的とし、授業科目の受講を主たる目的としない者。
※ 委託学生 A の受講料及び実習費は 1 単位当たりの額。
※ 委託学生 B の実習費は、実習費用が伴う場合、その都度実費を本人が負担します。

学籍継続者（卒業延期者）

在籍料	65,000円
受講料（講義〈一般〉）	17,250円
受講料（講義〈教職・学芸員〉）	5,500円
受講料（実技演習）	34,500円
実習費	3,500円

※ 在籍料の算定は5,000円単位とし、その中間金額を超える場合は切上げを行います。
※ 在籍料は前期（半期）のみの在籍の場合、半額の32,500円とします。
※ 受講料・実習費は1単位当りの額。

教職課程履修費及び学芸員資格取得に係る履修費

教職課程履修費（登録料）	24,500円
学芸員履修費（登録料）	21,000円

◎ 造形学部通信教育課程

入学金及び授業料

	1年次	2・3・4年次
入学金（入学時のみ）	30,000円	―
授業料	285,000円	285,000円
合計	315,000円	285,000円

※ 編入学者に係る入学金は 30,000円。
※ 本学（別科を含む）、本学短期大学部（通信教育部を含む）、本学短期大学（通信教育部を含む）、武蔵野美術学校、武蔵野美術学園等の卒業生及び中退者は、入学金（編入学金）を免除。本学造形学部通学課程からの転籍者も入学金を免除。

面接授業受講料

○ 鷹の台校・吉祥寺校・新宿教室で開催の場合
講義科目は1単位につき8,000円、
講義科目以外の授業科目は1単位につき13,000円

○ 上記以外の地方会場で開催の場合
講義科目は1単位につき10,000円、
講義科目以外の授業科目は1単位につき16,000円

教職課程履修費

○ 教育職員免許法第5条第1項別表第1による場合：114,000円
○ 教育職員免許法第6条第2項別表第3及び別表第8による場合：57,000円
○ 教育職員免許法第6条第3項別表第4による場合：57,000円

学芸員課程履修費

69,000円

科目等履修生

	一般	教職生 教育職員免許法第6条 別表第3及び別表第8による場合	教職生 教育職員免許法第6条 別表第4による場合	特修生
登録料	40,000円	40,000円	40,000円	40,000円
受講料（講義科目）	12,000円	8,400円	319,000円	12,000円
受講料（講義科目以外）	18,000円	12,600円		18,000円
考査料	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円

※ 教育職員免許法第6条別表第4による場合の教職生を除き、受講料は1単位当たりの額。

◎ 武蔵野美術学園

登録料	施設費	授業料	実習費	維持費	保険料	合計
90,000円	52,500円	360,000円	52,500円	30,000円	900円	585,900円

入学金減免について

本学では、本学短期大学・造形学部・大学院の卒業、修了者が再度本学に入学する場合、入学金が免除される入学金減免制度を用意しています。

※ 本学短期大学卒業者の中には、専攻科修了後学位授与機構において学士の学位を得た者を含みます。また、短期大学部及び造形学部には、通信教育課程を含みます。
※ 転科・転専攻は、在学生の本学造形学部内での学籍異動なので、入学金は徴収しません。

	減免適用者	入学金
大学院造形研究科 博士後期課程	本学造形学部卒業後他大学大学院修士修了者（修了見込含む）	半額
	本学大学院修士修了者（修了見込含む）	徴収しない
大学院造形研究科 修士課程	本学造形学部卒業者（卒業見込含む）	半額
	本学大学院修了者（修了見込含む）	半額
造形学部 （1年次入学・ 3年次編入学・転籍）	本学短期大学卒業者・本学造形学部卒業者（卒業見込含む）・本学大学院修了者（修了見込含む）・本学通信教育課程からの転籍者	半額

奨学金

◎ 大学奨学金（給付型）

名称	対象	選考基準	支給額（年額）	採用人数
武蔵野美術大学奨学金	造形学部 大学院博士前期課程 （修士課程）	人物及び学力が優秀であり、かつ経済上の事情により修学することが困難であると認定された者	592,500円	50名
			300,000円	160名
武蔵野美術大学 奨学金緊急採用	全学生	家計支援者が死亡、破産等により家計が急変した学生で、修学の継続が困難な学生	家計状況により決定	4名
武蔵野美術大学 奨学金緊急採用（災害罹災用）	全学生	自然災害に罹災し、教務チームの授業減免制度を受けてない学生で、修学の継続が困難な学生	罹災程度により決定	定員なし
武蔵野美術大学 大学院博士前期課程（修士課程） 奨励奨学金	大学院博士前期課程 （修士課程）	博士前期課程（修士課程）に在籍する優秀で意欲のある学生	500,000円	3名
武蔵野美術大学 大学院博士後期課程奨励奨学金	大学院博士後期課程 （博士課程）	大学院博士後期課程に在籍する優秀で意欲のある学生	592,500円 （3年間給付）	入学者数
武蔵野美術大学 校友会奨学金	造形学部4年生	勉学に熱意をもつ学部4年生。卒業制作企画案により選考	100,000円	12名
武蔵野美術大学 外国留学奨励奨学金	協定留学対象者	協定留学生として選考され、受入大学等の承認を得て留学が確定した者	留学期間に応じて日本学生支援機構海外留学支援制度（短期派遣）が定める派遣先地域による奨励金月額	協定留学 確定者数

◎ 研究室推薦の奨学金（給付型）

名称	対象	選考基準	支給額（年額）	採用人数
清水多嘉示賞	大学院博士前期課程（修士課程） 彫刻コース	彫刻学科を卒業し、大学院彫刻コースに入学した学生で、卒業制作の成績が極めて優秀かつ作家としての将来性が有望な者	100,000円 （2年間給付）	1名
三林亮太郎賞	大学院博士前期課程（修士課程） 空間演出デザインコース	空間演出デザイン学科を卒業し、大学院空間演出デザインコースに入学した学生で、卒業制作の成績が極めて優秀かつデザイナーとしての将来性が有望な者	100,000円 （2年間給付）	1名
三雲祥之助賞	大学院博士前期課程（修士課程） 油絵コース	本学油絵学科を卒業し、大学院油絵コースに入学した学生で卒業制作が極めて優秀かつ作家としての将来性が有望である者	100,000円 （2年間給付）	1名
飯田三美賞	大学院博士前期課程（修士課程） 工芸工業デザインコース	工芸工業デザイン学科を卒業し、大学院工芸工業デザインコースに入学した学生で、卒業制作の成績が極めて優秀かつデザイナーとしての将来性が有望な者	100,000円 （2年間給付）	1名
前田常作賞	大学院博士前期課程（修士課程） 油絵コース 版画コース	油絵学科を卒業し、大学院油絵コース又は版画コースに入学した者で、油絵学科の卒業制作の成績が極めて優秀であり作家としての将来性が有望な者	100,000円 （2年間給付）	各コース 1名
杉村奨学金	造形学部空間演出デザイン学科	空間演出デザイン学科に在籍し、優秀なる資質を有する学生	100,000円	1名
橋本修英奨学金	大学院博士前期課程（修士課程） 建築コース	大学院建築コースに在籍し、優秀なる資質を有する学生	100,000円	1名
岡井奨学金	大学院博士前期課程（修士課程） 視覚伝達デザインコース	大学院視覚伝達デザインコースに在籍し、優秀な資質を有する留学生	100,000円	1名
根岸奨学金	大学院博士前期課程（修士課程） 油絵コース	大学院油絵コースに在籍し、造形学部在学中に「絵画組成」の授業を履修し、優秀な成績を修めた学生	100,000円	1名

◎ 外国人留学生を対象とした本学奨学金（給付型）

名称	対象	選考基準	支給額（年額）	採用人数
武蔵野美術大学 私費外国人留学生奨学金	造形学部、大学院博士前期課程（修士課程）の留学生	人物及び学力が優秀であり、かつ経済上の事情により修学することが困難であると認定された者	300,000円	6名

◎ 卒業生を対象とした奨学金（給付型）

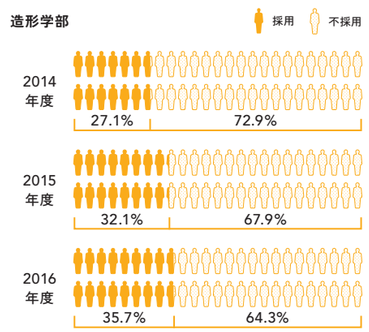
名称	対象	選考基準	支給額（年額）	採用人数
武蔵野美術大学 海外留学研究奨励奨学金	学士・修士学位 取得者	卒業若しくは修了後に、学位取得を目的として海外の大学院の正規課程に進学する者又は本学が大学院と同等であると認めた海外高等教育機関の正規課程に進学する者（募集年限あり）	1,000,000円	1名
ポール・スミス奨学金	造形学部・大学院博士前期課程（修士課程）の卒業年次生	優秀且つ才能ある学生で、ノッティンガムトレント大学の修士課程に推薦された学生	6,000ポンド＋授業料	1名

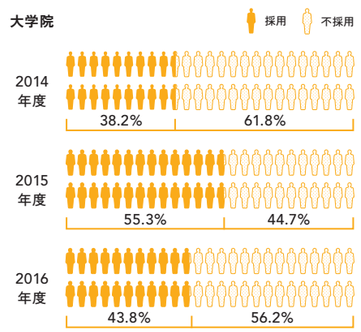
◎ 授業料減免制度

名称	対象	選考基準	支給額	採用人数
経済的支援授業料減免	造形学部 大学院博士前期課程 （修士課程）	家計困窮により修学の継続が困難な学生	当該年度半期授業料の 3割	220名
災害救助法による学費減免	全学生	災害救助法適用地域に学費支援者が在住し、自然災害で罹災し修学の継続が困難と認められた学生	罹災程度により決定	定員なし
私費外国人留学生授業料減免	造形学部・大学院博士前期課程（修士課程）に在籍する私費留学生	出席良好でかつ、経済的理由により修学の継続が困難な者	授業料の3割を上限	定員なし （原資上限あり）

武蔵野美術大学奨学金の新規採用状況

過去3年間の「武蔵野美術大学奨学金」の新規採用状況です。2016年度からは採用者数を10名増やし、210名に給付しています。なお、2016年度の適格出願者数は造形学部529名（在学者数比12.4%）、大学院48名（同18.8%）、採用者数は造形学部189名（同4.4%）、大学院21名（同8.2%）です。





進路・就職

本学の学生は創作活動を通じて、美術・デザインの専門性を高めながら、幅広い教養やものごとを深く考える力、そしてあらゆる表現手段を用いたコミュニケーション能力を養っていきます。言い換えれば、本学での４年間は、社会人として必要な基礎を固めていく大切な時間であり、大学におけるすべての活動がキャリア形成につながっているのです。学生一人ひとりが納得のいく進路選択ができるよう、キャリアセンターや各学科研究室できめ細かな進路指導を実施。多彩なキャリア・就職支援体制を整えて、夢の実現をサポートしています。

◎ 進路・就職支援

キャリア支援（1年次～）

入学直後から、将来の夢や“なりたい自分”をイメージし、自分で考え、行動する力を身につけられるよう様々な支援プログラムを展開しています。

◎新入生進路就職オリエンテーション｜入学直後から将来の進路を見据え、目的意識を持って有意義に大学生活を送ることができるよう、学び・進路・就職について考えるオリエンテーションを実施しています。
◎進路就職講座（1回／年）｜美術大学の特性を生かし、幅広い視点から進路を考える基礎講座です。全学年を対象にしています。
◎キャリア設計基礎（前期・後期各２単位）｜社会や職業、自己への理解を深めながら、生涯を通じたキャリアプランを主体的に設計できる基礎力を身につけることを目的とした正課授業です。

インターンシップ

インターンシップでは企業や公共機関、各種団体等での就労体験を通じて、社会への視野を広げ、業界や職種への理解を深めることができます。本学では民間企業をはじめ、美術・博物館、市役所などの公共機関、地域の文化活動や環境保護活動を行っている団体など、多彩な領域のインターンシップを紹介しています。また、インターンシップに参加するにあたっての心構えや探し方、諸手続の進め方のほか、先輩からの体験談を聴くことができるインターンシップオリエンテーションも実施しています。

◎インターンシップ参加実績（2016年度実績より一部抜粋）

アサツー ディ・ケイ／安曇野ちひろ美術館／アックス／映画スタッフ育成事業／NHKエデュケーショナル／エポック社／岡村製作所／カシオ計算機／キヤノン／コロプラ／シアトル美術館／シマノ／シミズオクト／スクウェア・エニックス／スタジオジブリ／積水ハウス／ソニー／大日本印刷／太陽企画／DeNA／TBSテレビ／電通／東芝／内閣官房／日建スペースデザイン／日産自動車／日本デザインセンター／乃村工藝社／博報堂／パナソニック／フジテレビジョン／本田技研工業／マツダ／三越伊勢丹／三菱自動車工業／三菱重工／三菱電機／文部科学省／ヤマハ発動機／リコー／ルミネ／レイアップ

主な就職支援行事（3年次）

4月～6月	第１回進路･就職ガイダンス、インターンシップオリエンテーション、ポートフォリオ・プレゼンテーション支援プログラムガイダンス 業界職種研究会（5月～随時）、進路就職講座
9月	第２回進路・就職ガイダンス
10月	企業ガイダンス、ポートフォリオ・プレゼンテーション指導会
11月	内定者報告会、ポートフォリオ展示会、就職模擬試験
12月	業界セミナー（随時）
1月	合同会社セミナー（随時）
3月	学内会社説明会（単独・合同）（随時）

就職支援（3・4年次）

就職採用試験のスケジュールに合わせて、タイムリーかつ実践的なプログラムを提供しています。

◎進路・就職ガイダンス｜就職活動を行ううえで必要となる基本的な事項等の情報を提供。3年次の4月から4年次にかけて計3、4回、実施しています。
◎業界・職種研究会｜学生の関心が高い業界・職種の第一線で活躍している方（主に卒業生）が講師として参加する研究会です。実際の仕事内容について理解を深め、進路選択に役立てます。

求人情報の提供

企業を正しく知ることが、就職への第一歩です。キャリアセンターでは企業の求人情報をタイムリーに提供しています。

◎進路情報システム｜本学独自の就職情報システムで約7,000社の企業等のデータを収集しており、学生はインターネット経由でどこからでも利用できます。
◎進路情報スペース｜進路・就職に関する情報誌やパンフレットの配布、採用を行っている企業からの求人票の閲覧などができるスペースを設けています。進路情報システムの利用やインターネットを使った情報収集も可能です。
◎学内での会社説明会｜年間100社を超える学内での会社説明会を実施しています。企業等の採用担当者や本学卒業生より直接会社の説明を受けられる機会です。

キャリアセンター・キャリアカウンセラーによる就職相談

キャリアセンターの相談窓口では、学科別の担当者およびキャリアカウンセラーが個別相談を受け付けています。また、履歴書・エントリーシートの書き方、クリエイティブ系の就職活動に必要なポートフォリオのつくり方、模擬面接など、進路に関することについて全般的にバックアップ。一人ひとりの個性や強みを生かした就職活動を行えるよう、きめ細かなサポートを展開しています。

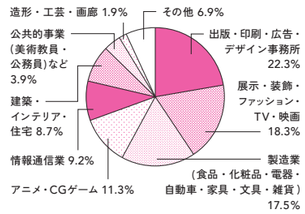
◎ 2016年度卒業生の進路状況（2017年5月1日現在）

近年では造形感覚や造形能力を持つ人材が広く社会から求められるようになり、作家やデザイナー以外にも、様々な企業へ就職の可能性が広がっています。美術大学で培われた幅広い視野と高い専門性を基本としながら、新しい領域を開拓していく人材を数多く輩出しているのも、本学の特徴といえます。

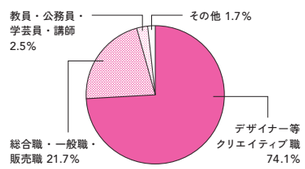
造形学部

学科		卒業者	就職希望者	就職者	進学者	その他 作家活動を含む	就職率（就職者／希望者）
造形学部	日本画学科	34	13	9	13	12	69%
	油絵学科	151	54	41	36	74	76%
	彫刻学科	35	15	15	10	10	100%
	視覚伝達デザイン学科	113	89	77	1	35	87%
	工芸工業デザイン学科	149	98	84	8	57	86%
	空間演出デザイン学科	127	73	58	8	61	79%
	建築学科	80	41	38	11	31	93%
	基礎デザイン学科	76	54	46	5	25	85%
	映像学科	89	48	40	7	42	83%
	芸術文化学科	83	50	44	5	34	88%
	デザイン情報学科	104	85	70	1	33	82%
合計		1,041	620	522	105	414	84%

2016年度 業種別就職状況



2016年度 職種別就職状況



大学院造形研究科

コース		修了者	就職希望者	就職者	進学者	その他 作家活動を含む	就職率（就職者／希望者）
大学院	日本画コース	8	5	3	0	5	60%
	油絵コース	21	6	6	2	13	100%
	版画コース	5	1	1	0	4	100%
	彫刻コース	10	2	2	1	7	100%
	造形理論・美術史コース	0	0	0	0	0	—
	芸術文化政策コース	3	1	1	0	2	100%
	視覚伝達デザインコース	10	8	5	0	5	63%
	工芸工業デザインコース	9	6	6	1	2	100%
	空間演出デザインコース	2	1	1	0	1	100%
	建築コース	17	14	9	0	8	64%
	基礎デザイン学コース	4	4	3	0	1	75%
	映像コース	13	10	1	0	12	10%
	写真コース	6	5	2	0	4	40%
	デザイン情報学コース	2	1	1	0	1	100%
	博士後期課程 造形芸術専攻	3	3	1	0	2	33%
合計		113	67	42	4	67	63%

※修了者の他、満期退学者も含む。

◎ 造形学部学科別就職実績（2014～2016年度実績より抜粋）

日本画学科
［出版・印刷・広告・デザイン事務所］
アクア／東栄広告
［展示・装飾・ファッション・TV・映画］
テレビ山梨／鞄工房山本
［製造業］
良品計画／ブループルーエジャパン／鞄工房山本
［建築・インテリア・住宅］
東急リバブル／ディーワークス
［アニメ・CG・ゲーム］
任天堂／カプコン／ジェー・シー・スタッフ／マーベラス／メトロ
［情報通信業］
あとらす二十一／イクシール
［公共的事業］
東京都教員／特定非営利活動法人 道
［造形・工芸・画廊］
糸あやつり人形 一糸座

油絵学科
［出版・印刷・広告・デザイン事務所］
岐阜文芸社／エスパック／佐川印刷／アクア／日庄／大王パッケージ
［展示・装飾・ファッション・TV・映画］
俳優座劇場／AOI Pro／日本テレビアート／俄／中川政七商店／イビサ
［製造業］
世界堂／グッドスマイルカンパニー／ユザワヤ商事／田島ルーフィング／小見玩具製作所
［建築・インテリア・住宅］
DNP住空間マテリアル
［アニメ・CG・ゲーム］
コーエーテクモホールディングス／フロム・ソフトウェア／A-1ピクチャーズ／カプコン／1-UPスタジオ／ジェー・シー・スタッフ／セガホールディングス／DeNA／レベルファイブ
［情報通信業］
IMAGICAイメージワークス／ビジブル／サイバーエージェント
［公共的事業］
東京都教員／埼玉県教員／千葉県教員／福武財団（アートサイト直島）
［造形・工芸・画廊］
藤浪小道具／昭立造園／カリカチュアジャパン／ジェネレーション・エックス
［その他］
イトーヨーカ堂／紀伊國屋書店／はせがわ／三越伊勢丹

彫刻学科
［展示・装飾・ファッション・TV・映画］
昭栄美術／金井大道具／シミズオクト
［製造業］
フィアロコーポレーション／小峰玩具製作所／リーメント／ピート
［建築・インテリア・住宅］
飯田産業／大成建設
［アニメ・CG・ゲーム］
コーエーテクモホールディングス
［情報通信業］
ミツエーリンクス／イマジカデジタルスケープ
［公共的事業］
神奈川県教員
［造形・工芸・画廊］
平和マネキン
［その他］
東京リサイクル

視覚伝達デザイン学科
［出版・印刷・広告・デザイン事務所］
KADOKAWA／共同通信社／毎日新聞社／生活の友社／プレジデント社／凸版印刷／レンゴー／光村印刷／電通／電通テック／博報堂／博報堂プロダクツ／博報堂アイ・スタジオ／東北新社／ADKアーツ／ADKインターナショナル／nendo／6D-K／カナリヤ／サン・アド／たき工房／プラビス・インターナショナル／アドブレーン／東京アドデザイナース／タイププロジェクト
［展示・装飾・ファッション・TV・映画］
オリエンタルランド／IMAGICA／アックス
［製造業］
サンリオ／ぺんてる／味の素／日清食品／ナリス化粧品／アサヒ飲料／赤城乳業
［建築・インテリア・住宅］
乃村工藝社／ムラヤマ
［アニメ、CG、ゲーム］
コーエーテクモホールディングス／カプコン／コナミグループ／マーベラス／プロダクション・アイジー／ぴえろ
［情報通信業］
ヤフー／サイバーエージェント／コロプラ／ニフティ／カヤック／富士ソフト
［公共的事業］
千葉県教員／東京都教員

工芸工業デザイン学科
［出版・印刷・広告・デザイン事務所］
コンセント／テイ・デイ・エス／日本デザインセンター／博報堂／博報堂プロダクツ／モリサワ
［展示・装飾・ファッション・TV・映画］
ジーク／スペース／七彩／白水社／博展／モデュレックス
［製造業］
アライヘルメット／イトーキ／河淳／キデイランド／小糸製作所／シマノ／セイコーウォッチ／タカラトミー／トヨタ自動車／トヨタ紡織／トヨタ車体／ナカバヤシ／日産自動車／俄／日立製作所／日野自動車／ブラザー工業／フェリシモ／SUBARU／ミズノ／三菱自動車工業／杢目金屋／リコー
［建築・インテリア・住宅］
岡村製作所／カリモクグループ／DNP生活空間
［アニメ・CG・ゲーム］
コーエーテクモホールディングス／コナミグループ／セガインタラクティブ
［情報通信業］
グリー／コロプラ／サイバーエージェント

空間演出デザイン学科
［出版・印刷・広告・デザイン事務所］
アオヤマ・フォト・アート／コンセント／博報堂
［展示・装飾・ファッション・TV・映画］
イリア／金井大道具／歌舞伎座舞台／ジーク／昭栄美術／スペース／船場／丹青社／TSP太陽／ディーフレックス／東宝舞台／ドラフト／七彩／日本テレビアート／乃村工藝社／俳優座劇場／バウハウス丸栄／博展／パルコスペースシステムズ／ムラヤマ
［製造業］
イトーキ／ウェルカム／柿安本店／土屋鞄製造所／中川政七商店／メリーチョコレートカムパニー
［建築・インテリア・住宅］
一条工務店／コクヨエンジニアリング＆テクノロジー／ミサワホーム
［アニメ・CG・ゲーム］
スタジオジブリ
［情報通信業］
サイバーエージェント
［その他］
大丸松坂屋百貨店／テイクアンドギヴ・ニーズ／阪急阪神百貨店

建築学科
［出版・印刷・広告・デザイン事務所］
電通テック／凸版印刷
［展示・装飾・ファッション・TV・映画］
シミズオクト／昭栄美術／スペース／船場／七彩／日建スペースデザイン／乃村工藝社／ベイクルーズ／三越伊勢丹プロパティ・デザイン
［製造業］
YKK AP／ムーンスター
［建築・インテリア・住宅］
アキュラホーム／池下設計／オープンハウス・アーキテクト／スウェーデンハウス／積水ハウス／大和小田急建設／大和ハウス工業／髙松建設／タマホーム／東京建物／戸田建設／ドラフト／日本建築構造センター／野村不動産パートナーズ／藤田建装／ポラスグループ
［アニメ・CG・ゲーム］
コーエーテクモホールディングス
［その他］
宮内庁／東日本旅客鉄道／LEGOLAND.Japan

基礎デザイン学科
［出版・印刷・広告・デザイン事務所］
小松総合印刷／コンセント／産業経済新聞社／テイ・デイ・エス／電通／電通クリエーティブX／東急エージェンシー／凸版印刷／博報堂／博報堂プロダクツ／ピークス／プラビス・インターナショナル／レンゴー／博報堂アイ・スタジオ
［展示・装飾・ファッション・TV・映画］
昭栄美術／スペース／パルコスペースシステムズ
［製造業］
伊那食品／伊勢半／花王／サントリーホールディングス／資生堂／ショウワノート／デザインフィル／ロフト／三菱鉛筆
［アニメ・CG・ゲーム］
京楽ピクチャーズ／コナミグループ／セガホールディングス
［情報通信業］
コロプラ／サイバーエージェント／ドリコム
［公共的事業］
日本自動車連盟
［造形・工芸・画廊］
M&I アート

映像学科
［出版・印刷・広告・デザイン事務所］
枻出版社／ADKアーツ／ボール／リクルート
［展示・装飾・ファッション・TV・映画］
アックス／イッセイミヤケ／NHKエンタープライズ／NHKメディアテクノロジー／昭栄美術／白組／太陽企画／ティー・ワイ・オー／テレビ朝日クリエイト／博展／ロボット／ワコール
［製造業］
H&M JAPAN／俄
［建築・インテリア・住宅］
田島ルーフィング
［アニメ・CG・ゲーム］
カプコン／元気／コーエーテクモホールディングス／コナミグループ／タツノコプロ／東映アニメーション／バンダイナムコグループ／プラチナゲームズ／プロダクション・アイジー
［情報通信業］
サイバーエージェント／チームラボ／DMM.com
［その他］
髙島屋／日本芸術文化振興会

芸術文化学科
［出版・印刷・広告・デザイン事務所］
アサツーデイ・ケイ／日経印刷／大東印刷工業／第一紙業／電通テック／産業編集センター／DNPメディアクリエイト／オーシャンズ
［展示・装飾・ファッション・TV・映画］
TSP太陽／やまと／七彩／丹青社／アッシュ・ペー・フランス／博展／ルームズ／ソニーミュージックエンタテインメント／ソニークリエイティブエンタテインメント／グリーンディスプレイ
［製造業］
スガツネ工業／貴和製作所／サンエックス／ユザワヤ商事／富士製額
［アニメ・CG・ゲーム］
ダイナモピクチャーズ／コロプラ
［情報通信業］
アドフォース／イマジカデジタルスケープ
［公共的事業］
福武財団（アートサイト直島）／東京都／八王子市学園都市ふれあい財団／東京藝術大学／佐久市教員
［造形・工芸・画廊］
アトリエ・エビス／シロ・スタジオ
［その他］
パルコ／大丸松坂屋百貨店／静岡鉄道／そごう・西武／三越伊勢丹／髙島屋／日本郵政／東急イン

デザイン情報学科
［出版・印刷・広告・デザイン事務所］
大日本印刷／誠文堂新光社／銀杏社／凸版印刷／三晃印刷／博報堂アイ・スタジオ／電通クリエーティブX／電通テック／東急エージェンシー／博報堂プロダクツ／東北新社／ジェイアール東海エージェンシー／太陽企画／広美／たき工房／草野剛デザイン事務所
［展示・装飾・ファッション・TV・映画］
日本テレビアート／昭栄美術／エトワール海渡／ブルーミング中西／アバハウスインターナショナル
［製造業］
サンリオ／レイアップ／ヤマキ／タカラベルモント／ページェーセーデージャパン
［建築・インテリア・住宅］
積水ハウス
［アニメ・CG・ゲーム］
スクウェアエニックス／コナミグループ／コーエーテクモホールディングス／カプコン／フロムソフトウェア／Cygames／アカツキ／サイバード／天狗工房／ボルテージ／マッドハウス／まんだらけ／コトブキヤ
［情報通信業］
ヤフー／サイバーエージェント／ジャストシステム／ミクシィ／ピーピーメディア／ミツエーリンクス／三菱総研DCS
［公共的事業］
藤沢市役所
［その他］
財団法人三宅一生デザイン文化財団／トーエル／SMBC日興証券／星野リゾート／東日本旅客鉄道

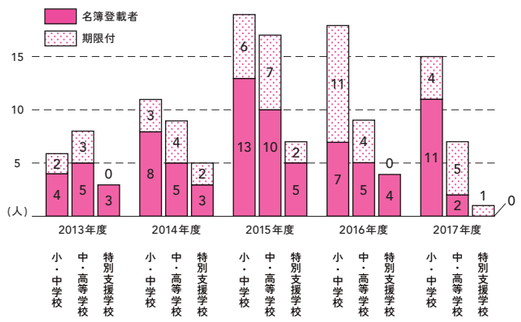
◎ 教員免許状授与件数

2016年度卒業者の免許状授与件数

（通学課程）課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数（免許状種別ごとに表示）			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	8	8	0	0	8
	油絵学科	40	40	5	0	36
	彫刻学科	9	9	0	0	9
	視覚伝達デザイン学科	2	2	0	0	2
	工芸工業デザイン学科	11	11	4	0	11
	空間演出デザイン学科	8	8	0	0	7
	芸術文化学科	9	9	3	0	9
	デザイン情報学科	0	0	0	0	0
	科目等履修生	10	9	5	0	9
	造形学部 小計	97	96	17	0	91
大学院	美術専攻	12	12	0	0	12
	デザイン専攻	1	1	0	0	1
	大学院 小計	13	13	0	0	13
合計		110	109	17	0	104

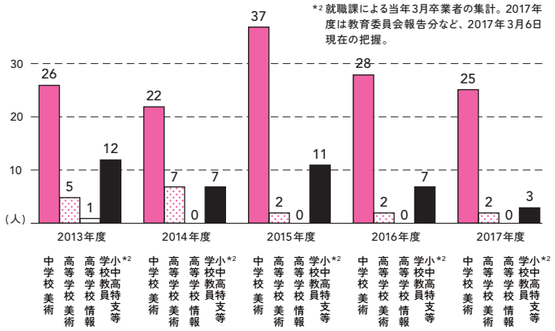
◎ 就職状況

過去5年間の東京都教員選考合格者推移



過去5年間の学校教員の採用実績

*1 各教育委員会による回答の集計（教諭等の専任者のみ）。
*2 就職課による当年3月卒業者の集計。2017年度は教育委員会報告分など、2017年3月6日現在の把握。



本学独自の質向上の取り組み

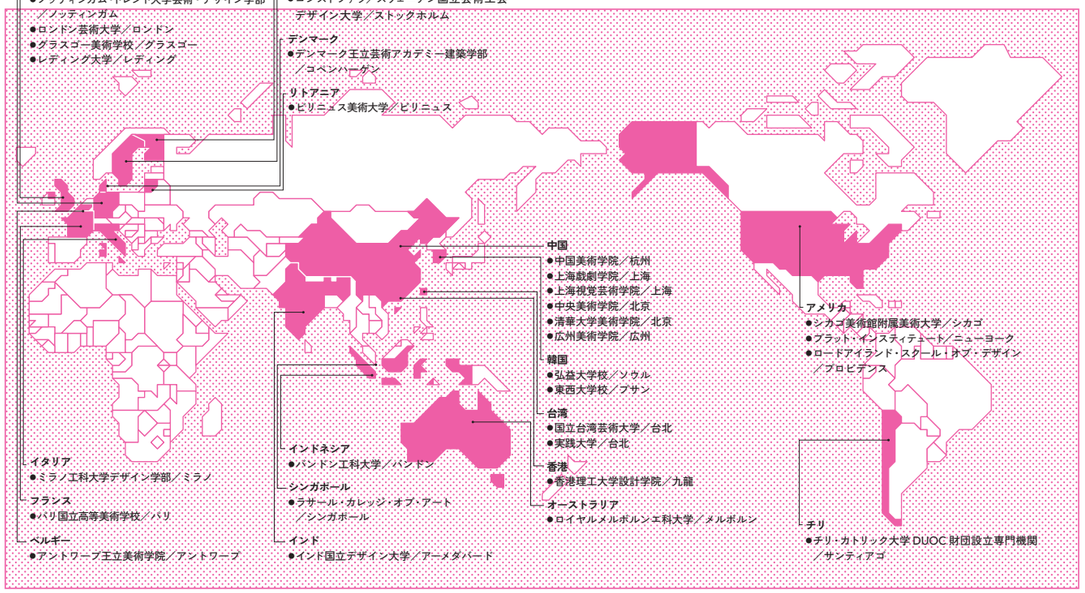
本学では、教育職員免許法施行規則等に定める授業科目の充実に努めるほか、大学独自の質向上の取組として、大学独自教科書の発行をはじめ、2006年に文部科学省より「特色ある大学教育支援プログラム」に選定された「美術と福祉プログラム」、造形ファシリテーション能力獲得プログラムなど、様々な取り組みを実施しています。

教職課程研究室の指導のもと、教職課程履修学生を中心に学生主体の課外活動として行う「旅するムサビ・ムサビる」。小中学校や地域団体と連携し、造形ワークショップや公開制作などを実施しています

本学は前身である帝国美術学校が東アジアから多くの学生を受け入れたことに始まり、美術・デザインの高等教育機関として先進的に国際交流活動に取り組んできた歴史があります。世界有数の美術・デザイン大学と協定を結び、国際交流プロジェクトの推進や留学生の派遣・受け入れ、学生の海外での活動支援などを実施。さらに、2012年には文部科学省「グローバル人材育成推進事業」において、芸術系大学で唯一の採択校となるなど、学生が世界へとの視野を広げる環境づくりをいっそう充実させています。

◎ 海外教育機関との交流協定

1994年、中国美術学院との協定締結から始まった本学の海外教育機関との交流。現在では33校と協定が結ばれています。いずれも各国や地域を代表するトップクラスの美術・デザイン教育を展開する高等教育機関です。また、下記以外にも、本学的交流を通じて、友好関係にある交流校が数多くあります。



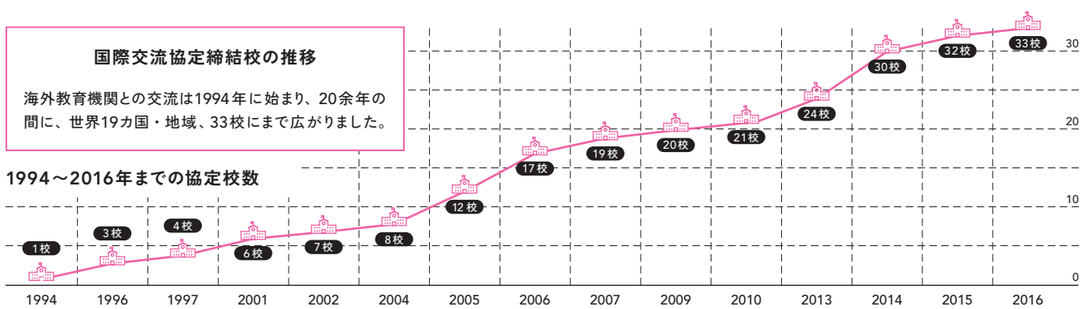
◎ 協定（交換）留学制度

協定留学とは、本学と相互交流が締結されている外国の大学・大学院へ、協定留学生として留学する制度です。留学を希望する学生は、学内選考により選抜されます。現在、パリ国立高等美術学校、プラット・インスティテュート、アールト大学美術デザイン建築学部、ミラノ工科大学デザイン学部、ベルリン芸術大学、弘益大学校、ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザインの6カ国7大学と協定留学を行っており、各々の大学に毎年1、2名の在校生を半年～1年間派遣。協定校からは各校1、2名の学生を受け入れています。留学先で修得した単位は審査を経て本学の単位として認定されるため、休学することなく4年間で卒業することができるほか、留学先の学費が免除され、海外留学奨学金が支給される経済的なメリットもあります。

国際交流協定締結校の推移

海外教育機関との交流は1994年に始まり、20余年の間に、世界19カ国・地域、33校にまで広がりました。

1994～2016年までの協定校数



◎ 協定留学状況（2016年5月現在）

過去5年間の協定留学派遣・応募状況

派遣年度	パリ国立高等芸術学校		アールト大学美術デザイン学部		ミラノ工科大学		プラット・インスティテュート		ベルリン芸術大学		弘益大学校		ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン	
	F	D	F	D	F	D	F	D	F	D	F	D	F	D
2016	0 (0)	1 (2)	0 (0)	2 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (3)	1 (3)	1 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (3)
2015	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (2)	1 (2)	1 (2)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (2)
2014	0 (1)	1 (2)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (5)	0 (0)	1 (4)	0 (0)	2 (5)	0 (0)	0 (0)		
2013	0 (1)	1 (2)	0 (0)	1 (4)	0 (0)	1 (2)	1 (1)	0 (1)	0 (1)	2 (4)	1 (1)	0 (0)		
2012	1 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (4)	0 (0)	1 (4)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	1 (3)	0 (0)	0 (0)		

※上段は派遣者数、下段（ ）内は応募者数。 ※Fはファイン系、Dはデザイン系からの応募。 ※NTU（5名）除く。

過去5年間の協定留学受入状況

受入年度	パリ国立高等芸術学校	アールト大学美術デザイン学部	ミラノ工科大学	プラット・インスティテュート	ベルリン芸術大学	弘益大学校	ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン
2016	彫刻 映像	基礎デ、工デ（2） 映像	基礎デ	映像（2）	基礎デ、建築 彫刻	デ情	空デ
2015	映像（2）	映像（2） 基礎デ	デ情	工デ 映像（2）	建築、空デ 映像	基礎デ	視デ
2014	映像（2）	映像	基礎デ	日本画	建築 空デ	視デ	
2013	彫刻 映像	工デ 空デ	工デ デ情	なし	彫刻	油絵	
2012	彫刻（2）	なし	工デ デ情	日本画 映像	日本画	油絵	

◎ 国・地域別留学生数（2016年5月現在）

本学で学ぶ外国人留学生は、世界15カ国・地域からの292人。東アジア圏の留学生が全体の約94%を占め、なかでも中国人留学生がもっとも多く159人に上ります。

国・地域	造形学部	大学院修士課程	大学院博士後期課程	合計
韓国	74	11	3	88
中国	103	54	2	159
台湾	13	13	0	26
香港	2	0	0	2
ポルトガル	1	0	0	1
タイ	3	2	0	5
インドネシア	3	0	0	3
マレーシア	1	0	0	1

国・地域	造形学部	大学院修士課程	大学院博士後期課程	合計
メキシコ	0	1	0	1
ポーランド	0	1	0	1
ベラルーシ	1	0	0	1
キプロス	0	1	0	1
アルゼンチン	1	0	0	1
スウェーデン	1	0	0	1
ドミニカ共和国	0	1	0	1
合計	203	84	5	292

◎ 武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラム

「武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラム」は、「語学力やコミュニケーション能力」「主体性や積極性」「異文化理解／アイデンティティの確立」という三つのカテゴリーと15項目からなるプログラムを通して、美術・デザインにおける高度な専門技術と知識を、海外においてもいかんなく発揮できる能力を養成する本学独自の国際教育です。

Globalize! Musashino Art University

GGJ Go Global Japan — Musashino Art University

海外短期留学の促進

海外短期留学プログラムを授業期間外に実施。海外語学研修では英語とフランス語の海外大学での語学コースを設置、条件を満たすと単位を取得することができます。また海外協定校との留学プログラムも随時実施しています。

語学教育の拡充

造形学部の「文化総合科目」「学科別科目」に英語で行う授業を開設。TOEFL／IELTSトレーニングセッション、TOEFL ITPテスト、TOEIC、IPの実施など、語学教育カリキュラムを充実させており、幅広い語学力を身につけることが可能です。

国際交流プロジェクトの充実

海外の教育機関との共同プロジェクトを通して、新たな美術・デザイン教育の方法論を模索するとともに、本学の教育の在り方を世界に発信する「国際交流プロジェクト」。海外を訪れて現地の学生とともに制作やワークショップを行い、国籍や専攻を超えての異文化理解の機会となります。今後は正課授業の留学プログラムとしての実施も進めていきます。

海外コンペ応募の奨励

海外での活動のきっかけとなる、海外コンペティションへの応募を奨励します。コンペティションの案内、応募方法、取組方法などをきめ細かくサポートするほか、授業内での課題化も検討し、世界へ挑もうとする学生をバックアップしていきます。

世界の学びに触れる特別授業

本学では1950年代より、世界の第一線で活躍するアーティストやデザイナー、研究者を「訪問教授」として招聘してきました。各学科研究室を中心に、訪問教授による合同制作・講評会などを通して、学生は世界の学びに触れることができます。

2016年度採択一覧

国際交流プロジェクト名	代表者名	所属研究室
Craft Design development at Sorsogon, Philippines	板東孝明教授	基礎デザイン
デンマークと日本、工芸デザイン交流プロジェクト	十時啓悦教授	工芸工業デザイン
東アジアの文化とデザイン	小林昭世教授	基礎デザイン
MAU-RMIT : Global-Local	クリストフ・シャルル教授	映像
Design with Bamboo and Rattan	伊藤真一教授	工芸工業デザイン
台湾国家教育研究院スペース鑑賞プロジェクト 旅するムサビ in 台湾	三澤一実教授	教職課程

◎ 武蔵野美術大学パリ賞

武蔵野美術大学パリ賞（以下：パリ賞）は、1965年に創設され、本学が創立会員として使用権を有する「国際芸術都市」アトリエに1年間入居し、創作活動を認める賞です。その理念は、本学を卒業・修了した卒業生の中から将来の活躍が期待され、国際的視野を持つ者に、副賞として研究費100万円を授与し、ヨーロッパ留学と創作研究活動の機会を与えて支援することにあります。本学は、アトリエ（本館）、アトリエ（別館）の二つのアトリエを専有し、多くの卒業生を派遣してきました。1999年度からは、パリ賞の受賞者2名を各アトリエへ派遣しています。

◎ 科学研究費助成事業

科学研究費助成事業【科研費】（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）は、全国の大学や研究機関において行われる様々な研究活動に必要な資金を研究者に助成する仕組みの一つで、人文・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対して助成されるものです。

最近の科学研究費助成事業による研究活動（採択状況）

研究代表者	研究課題名	研究年度	研究種目
園山憲子	CWL不変量の応用に関する総合的研究	2016年度～2018年度	基盤研究（C）
牧野良三	舞台美術から見た日本のオペラ文化史的考察	2016年度～2018年度	基盤研究（C）
白石美雪	近代日本における職業としての音楽評論家の成立過程	2016年度～2019年度	基盤研究（C）
小澤智子	移民の習い事・教え事の継承・活用・変容の基礎研究 ― 方法論的ナショナリズムの相対化	2016年度～2019年度	基盤研究（C）
北徹朗	初年次教育としての体育実技・演習の教育効果に関する研究	2016年度～2018年度	基盤研究（C）
小林昭世	デザインの基盤としての視覚化研究	2016年度～2019年度	基盤研究（C）
田中千賀子	大正期における新教育の実践と学校園	2016年度～2018年度	若手研究（B）
宮原ひろ子	トゥファ堆積物を用いた宇宙線強度変動復元手法の開拓	2015年度～2017年度	挑戦的萌芽研究
高橋陽一	昭和戦前戦中期における日本精神論の興隆と退潮	2015年度～2018年度	基盤研究（C）
杉浦幸子	乳幼児の心理的発達に関わる美術館における鑑賞プログラムの分析と開発	2014年度～2016年度	挑戦的萌芽研究
相原優子	ユダヤ系アメリカ文学に於けるイスラエル表象と平和のレトリックの考察	2014年度～2016年度	基盤研究（C）
岡崎乾二郎	相対運動描画ロボットによる媒体的認識の発現	2014年度～2016年度	基盤研究（B）
高山穣	手続型モデリングと3Dプリンタを併用した装飾部材の設計支援とその応用に関する研究	2014年度～2016年度	基盤研究（C）
森敏生	体育科教育におけるスポーツ活動システムの自律的形成と体育授業の実践的方法論	2013年度～2015年度	基盤研究（B）
宮原ひろ子	過去４万年間の宇宙線強度変動・太陽圏構造と地球環境変動	2013年度～2016年度	基盤研究（B）
小林昭世	視覚化表現の統合に関する研究：ダイアグラムの拡張	2013年度～2015年度	基盤研究（C）
黒川弘毅	清水多嘉示が遺した資料の研究 ― 近現代美術史の周辺と専門的美術教育について	2013年度～2015年度	基盤研究（C）
三澤一実	造形批評力の獲得を目指した校種間交流鑑賞プログラムの開発と普及システム作り	2013年度～2015年度	基盤研究（C）
白石美雪	ジョン・ケージにおけるジャポニズムとオリエンタリズムの再検討	2012年度～2015年度	基盤研究（C）
シャルル・クリストフ	山口勝弘のデジタルアーカイブ作成：日本メディアアート生成史の研究および記録化	2012年度～2015年度	基盤研究（C）
玉蟲敏子	近世前半の宮廷サロンにおける絵画制作と和歌の役割 ― 屏風絵と寄合画帖を中心に―	2011年度～2013年度	基盤研究（C）
高橋陽一	近代日本の学問形成・教科書編纂と国学	2011年度～2014年度	基盤研究（C）
三代純平	留学生の就労支援環境構築のための基礎研究 ― 元留学生のライフストーリー研究	2011年度～2014年度	若手研究（B）
田中正之	非ホワイト・キューブ的展示空間の歴史的考察	2010年度～2012年度	基盤研究（C）

◎ 共同研究

本学教員の研究活動を一層推進させることを目的として、教員が特定の研究課題について自主的にプロジェクト・チームを編成し共同で行っている研究に対し、大学は審査を行った上で研究費を助成しています。

共同研究助成一覧（平成28年度）

研究代表者	研究課題	概要
井口博美	地方創生都市の将来構想デザインに関する調査研究 ～房総ライフデザインプロジェクト	本研究はソーシャルデザインの観点から、地域（千葉県いすみ市）との協力関係の元で美術大学の立場を活かしたアプローチ方法や有効なデザイン方法論について研究・実践し、地域創生に関わる「将来ビジョンづくり」のモデルケースとして発表・展開していくことを目的とする。
黒川弘毅	清水多嘉示の美術教育と武蔵野美術学校	清水多嘉示が残した作品・文書・写真・印刷物などの全資料をデジタル・アーカイブとして公開し、武蔵野美術学校時代に焦点を当てた「清水多嘉示資料展」第３期を本学美術館で開催して、戦後期における清水の制作活動と美術教育を含む広範な社会活動への関与と業績を検証する。
小林昭世	色彩デザインの国際化と教育の再検討	今日の色彩デザインの考え方と方法は、近年の工学、科学、ビジネスの進展を受けて、それぞれの国毎にまた業界毎に多様化している。この研究では、造形の中には色彩デザインの基盤があるとはいえ、色彩デザインの創造力をそれを実現するための仕組みとともに捉え返すことを目標にする。共同研究分担者は、小林昭世、吉田慎悟、白石学。
関野吉晴	地球永住計画／この星で生き続けるための物語 ～芸術と科学と地域のコラボレーション～	火星移住のための調査研究は、この地球が命を育むのに如何に奇跡的な星かということの再認識でもありました。この奇跡の星を私たちが生き続けていくためにはどうしたらいいのか。この壮大な課題に科学者や芸術家、市民がともに向き合い、アートで表現します。
三澤一実	美術の学びを伝える「美術の学力見える化プロジェクト」の研究	義務教育においての図工美術の必要性や重要性、また美術教育で育つ学力を、授業記録を取りながら、どの様な学力が育つか分析し、その内容からポスターや映像を作成し日常的に校内に展示していく。保護者や一般の市民に理解できるプレゼンテーションを考える。

◎ 科学研究費助成事業プロジェクト事例

手続型モデリングと3Dプリンタを併用した装飾部材の設計支援とその応用に関する研究

デザイン情報学科准教授　高山穣　　研究年度：2014～2016年度　研究種目：基盤研究（C）

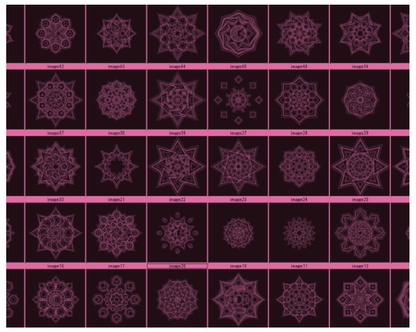
少ないデータ量で出力結果を得られる
装飾文様の効率的生成アルゴリズム

研究テーマは、手続記述によるコンピュータグラフィックス（CG）表現です。一般的なCGは、作り手が思い描く形状を、CADやCGソフトウェア、3Dスキャンなどを用いてモデリングしますが、手続記述という方法では表現したい対象物にみられる生成規則を、プログラミング言語や数式でアルゴリズム化（手続化）して表します。少ないデータ量で効率的に出力結果を得られるため、人間が手作業で描くことが困難な樹木や岩肌といった自然物をはじめ、近年では都市景観や建築物などの人工物を手続記述で表現する事例も増えています。
私は本学のデザイン情報学科在学中から、メタボールと呼ばれる、CGにおいて滑らかな形状を表現する技法に取り組み、独自に開発したメタボール描画アルゴリズムは後に国内外で特許権が認められました。このアルゴリズムは装飾的な図案を容易に生成できることから、実在する古典的な装飾様式の手続化の研究を続けて現在に至ります。過去の科研費研究課題では、西洋のゴシック様式の建築物に取り入れられているトレーサリー（窓飾り）に着目し、尖塔アーチに展開される装飾を自動生成させるアルゴリズムを開発。そこで生成されたトレーサリーのパターンを、3Dプリンタで立体物として出力することに成功しました。

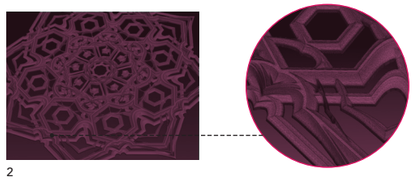
効率的な立体形状出力法の追求と
実用化の検討

今回の科研費研究プロジェクトでは、これまでの研究で得られた装飾文様を実際の装飾部材として活用するための、効率的な出力方法の構築を目指しました。CG画像は一見すると三次元ですが、特殊な技法で陰影をつけているだけで、立体物として出力するには三次元形状データへの変換が必要です。すでに過去の研究で、CG画像から形状生成を行う技法（ディスプレースメントマッピング）を試みていたものの、今回の研究ではより効率的な形状生成を行えるよう、形状の頂点データを直接書き出すアルゴリズムの構築に取り組みました。また、実際の装飾部材へ応用できる精度や耐久性の検証も行い、都内のホテル客室に出力した装飾パネルを室内装飾として展示。さらに、様々な美術展覧会や国際会議への出品も行い、デジタルファブリケーションである装飾パネルがファインアートの枠組みの中でどう見えるかという確認も行いました。装飾を多用する伝統工芸品は、その複雑な工程によって制作に長い時間や労力を要しますが、一連の研究により、建築、インテリア、美術工芸等の分野において、伝統工芸の設計や製造過程の効率化に貢献する新たな造形プロセスの確立と、価値の創出につなげることができる可能性があると考えています。
今後は、日本の伝統的装飾に見られる幾何学的要素の解明と手続化を行い、複雑な文様を生成する造形アルゴリズムの開発や、実用に耐えうる造形技法の確立を目指していきたいと考えています。題材としては、欄間などの装飾で用いられることの多い組子細工や江戸切子の複雑なパターン、寄木細工などの幾何学パターンを想定しています。超高精細な文様や未知の文様、また、球面上に展開される組子細工など、旧来の技法では難しい装飾の実現を行っていきたいと考えています。

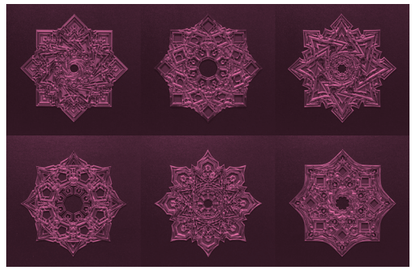
高山穣（たかやま・じょう）
1976年生まれ。武蔵野美術大学デザイン情報学科卒業、九州大学大学院芸術工学府博士後期課程修了。博士（芸術工学）。テキサス大学ダラス校客員研究員、九州産業大学芸術学部講師を経て、2014年武蔵野美術大学デザイン情報学科専任講師として着任。2016年同准教授就任。



1



2



3

4

1 プログラムで自動生成したメダリオンのパターン例
2 3Dモデル化したメダリオンの例
3 完成したメダリオン
4 美術展覧会での展示風景

◎ 産官学共同プロジェクト

既存の価値観の再考や新たな価値の創出が求められる時代の流れの中、本学では企業や地方自治体等との協力体制のもと、多彩なテーマによる産官学共同プロジェクトを実施しています。全学的なサポートのもとでいっそう力強く産官学共同プロジェクトを展開していくため、規約の整備を行い、受け入れ窓口として研究支援センター（RPC／Research Promotion Center）を設置し、それとともに産官学共同研究推進委員会がその推移に努めています。美術大学に脈々と根付く「課題発見力」と「思考力」、そして個々の専門領域での「表現力」を起点とし、産官学共同プロジェクトを通して社会と繋がり、社会から学び、社会貢献を果たすことを目指しています。

産官学プロジェクト一覧（2016年度）

『三鷹市立図書館ロゴマークを活用したブランディング（三鷹市立図書館移動図書館車両ラッピングデザイン）』
三鷹市教育委員会＋視覚伝達デザイン学科

『わらアートまつり 2016』
新潟市西蒲区＋基礎デザイン学科

『トーショー ウィンドウディスプレイ制作』
株式会社トーショー＋芸術文化学科

『雨田光弘「ねこの原画展」及び「府中の森芸術劇場クリスマスディスプレイ」に関する研究』
公益財団法人府中文化振興財団＋芸術文化学科

『UMARTs2016』
公益財団法人馬事文化財団＋芸術文化学科

『笠間市デザイン連携事業』
茨城県笠間市＋基礎デザイン学科

『西蒲区PR映像制作』
新潟市西蒲区＋基礎デザイン学科

『将来モビリティーデザイン研究』
株式会社ブリヂストン＋工芸工業デザイン学科

『房総発ライフデザインプロジェクト』
千葉県いすみ市＋デザイン情報学科＋空間演出デザイン学科

『理化学研究所横浜地区展示プロジェクト2016』
理化学研究所＋油絵学科＋彫刻学科

『学生が飲みたいインスタントコーヒーの飲み方と伝え方』
味の素ゼネラルフーヅ株式会社＋視覚伝達デザイン学科

『TAICA 次世代CMF』
株式会社タイカ＋工芸工業デザイン学科

『メタルプロジェクト2』
株式会社丸和製作所＋工芸工業デザイン学科

『IKEA×武蔵野美術大学合同プロジェクト』
IKEA＋工芸工業デザイン学科

『「武甲山の見える高台に作る素敵な場所の提案」に関する研究』
埼玉県横瀬町＋建築学科

『狭山茶ブランディング事業』
狭山市茶業協会＋基礎デザイン学科

『顕微鏡状態検出センサーのデザイン』
株式会社フローベル＋工芸工業デザイン学科

『徳島大学病院展示プロジェクト』
徳島大学病院＋基礎デザイン学科

『機能をデザイン化する装具の研究』
株式会社エンプラス研究所＋工芸工業デザイン学科

『UMARTs2016』
公益財団法人
馬事文化財団＋
芸術文化学科

実施期間：
2016年7～9月

公益財団法人馬事文化財団と芸術文化学科とのコラボレーション企画として、本学在学生、卒業生が参加する展覧会「UMARTs2016 ―うまからうまれるアート」展を開催。馬を五感で体験し、制作した新作をJRA競馬博物館で展示するとともに、馬にちなんで企画されたユニークなパブリックプログラムも行いました。

その他の主な学外とのコラボレーション

『春が来た みんなであそぼう布おもちゃ2017』
TOY工房どんぐり＋視覚伝達デザイン学科

『まちで楽しむpart4 小平7つの視点～小平市内、周辺の学生と一緒にまちで楽しむ～』
まちで楽しむ実行委員会＋小平市大学連携協議会＋視覚伝達デザイン学科

『こだいらNPOボランティアセミナー』
こだいらNPOセミナー第13期推進委員会＋白梅学園大学＋嘉悦大学＋文化学園大学＋小平市社会福祉協議会＋NPO法人小平市民活動ネットワーク＋視覚伝達デザイン学科

『仮面フェスタ ロッポギ村』
（公社）日本グラフィックデザイナー協会＋視覚伝達デザイン学科

『「小平わくわくパレードカー」図工の連携授業』
小平市立小平第十二小学校＋視覚伝達デザイン学科

『こだいら333バースデイセレモニー ～つながれ！ぼくらの333』
小平市立小平第十二小学校＋小平市＋武蔵野美術大学ラテン音楽研究会＋視覚伝達デザイン学科

『ハロウィンがやってくる！仮面deパレード』
小平市中央公民館けやき青年教室＋視覚伝達デザイン学科

『かさねてつなげてトーテムポール』
小平市中央公民館けやき青年教室＋視覚伝達デザイン学科

『異才たちのアート展』
第23回障害者週間のつどい実行委員会＋視覚伝達デザイン学科

『異才たちのアート展2016＆第42回障がい者作品展』
第23回障害者週間のつどい実行委員会＋小平市健康福祉部障がい者支援課＋小平市教育委員会中央公民館＋視覚伝達デザイン学科

『みんなでつくる音楽祭 in 小平ハッピーメリージングルベル（ワークショップ）』
みんなでつくる音楽祭実行委員会＋視覚伝達デザイン学科

『本を食べる！小平市立図書館40周年プロジェクト』
小平市中央図書館＋視覚伝達デザイン学科

『図書館「いごこち革命」小平市立図書館40周年プロジェクト』
小平市中央図書館＋視覚伝達デザイン学科

『図書館職員研修会「武蔵野美術大学×小平市立図書館プロジェクト」報告会』
小平市立図書館職員全体会・職員研修会＋視覚伝達デザイン学科

『2016ルネこだいら夏休みフェスタ　雲の上でこねこねクッキング』
2016ルネこだいら夏休みフェスタ実行委員会＋視覚伝達デザイン学科

『世田谷区本庁舎等整備基本構想検討委員会（検討委員会・中間報告会ワークショップ）』
世田谷区総務部庁舎計画担当課＋視覚伝達デザイン学科

『小平市まちづくりカフェ＆景観セミナー（ワークショップ）』
小平市都市計画課＋建築学科研究室鈴木ゼミ＋視覚伝達デザイン学科卒業生有志＋視覚伝達デザイン学科

『国立市富士見台団地まちづくり懇談会（ワークショップ）』
国立市国立駅周辺整備課＋視覚伝達デザイン学科

『小平市市民協働フォローアップセミナー（ワークショップ）』
小平市市民協働＋視覚伝達デザイン学科

『国分寺市北口地区第1種市街地再開発事業タウンネーミング候補選定委員会』
国分寺市都市整備部国分寺駅駅周辺整備課＋視覚伝達デザイン学科

『三鷹市まちづくり総合研究所（研修+ワークショップ）』
三鷹ネットワーク大学＋視覚伝達デザイン学科

『フラワーパズルワークショップ一繋げて、飾って、おきにいり！』
鳥取県立博物館＋空間演出デザイン学科

『ムサビる！』
東大和市立第二中学校＋東大和市立第五中学校＋空間演出デザイン学科

『子供町内会プチプチワークショップ』
子供町内会事務局＋川上産業（株）＋空間演出デザイン学科

『子供町内会祭』
子供町内会事務局＋川上産業（株）＋空間演出デザイン学科

『代官山猿楽祭り「化け楽」』
猿楽祭実行委員会＋（株）七彩＋ヒルサイドテラス＋代官山ロータリークラブ＋空間演出デザイン学科

『TRANS ARTS TOKYO 2016』
TRANS ARTS TOKYO 実行委員会＋空間演出デザイン学科

『and Action! Asia 映画・映像専攻学生交流プログラム』
国際交流基金アジアセンター＋全国映画教育協議会＋映像学科

『小山町フィルムクリエーターズアワード2016』
スタジオタウン小山＋映像学科

『府中市美術館リーフレット編集プロジェクト』
府中市美術館＋芸術文化学科

『あいあい×ムサビプロジェクト』
日野市こども家庭支援センター＋子育て支援グループ・多文化ひろばあいあい＋言語文化研究室

『ときめきプロジェクト』
（公財）国際文化フォーラム＋言語文化研究室

『旅するムサビプロジェクト』
小学校＋中学校＋高等学校＋特別支援学校＋教職課程研究室

『キョウノドウキ ― 矩形・そこに見る日本画の可能性』
東京都美術館＋通信教育課程

『吉祥寺ハロウィンフェスタ2016』
吉祥寺活性化協議会＋通信教育課程

『コミュニケーション研究Ⅰ　面接授業「地域活動の取材」』
世田谷すみればネット＋NPO法人プレーパークせたがや＋通信教育課程

『コミュニケーション研究Ⅱ 通信授業「地域のこと・地域の人」面接授業「コミュニケーションデザイン展」』
自分の住む地域の人や活動＋通信教育課程

『せたがや水辺の楽校』
NPO法人せたがや水辺デザインネットワーク＋通信教育課程

『砧・多摩川あそび村』
NPO法人せたがや水辺デザインネットワーク＋通信教育課程

『そとあそびプロジェクトせたがや』
世田谷区＋そとあそびプロジェクトせたがや＋通信教育課程

◎ 他大学との連携

充実した学術研究環境を形成するために、本学では国外の大学や様々な機関との交流・提携を積極的に推進しています。国内の大学では、早稲田大学との学術交流や、多摩アカデミックコンソーシアム(TAC)に参画し、図書館の相互利用や単位互換制度などが実現しています。また、東京工業大学との教育研究交流、美術系大学連絡協議会、小平市大学連携協議会(愛称・こだいらブルーベリーリーグ)との連携協定等も結んでいます。

早稲田大学との学生交流制度

早稲田大学と教員・学生の交流、共同研究の実施、図書館の相互利用などを含む学術交流に関する協定を締結し、2001年度から学生交流を行っています。学部2年生以上を対象とした特別聴講学生の制度では、早稲田大学が提供する科目を選択履修でき、修得した単位は本学の単位として、卒業所要単位数に算入することができます。

多摩アカデミックコンソーシアム

多摩アカデミックコンソーシアム(Tama Academic Consortium = TAC)は、多摩地区にキャンパスをもつ国際基督教大学(ICU)、国立音楽大学、東京経済大学、東京外国語大学、津田塾大学と本学の6大学による大学協力機構です。加盟大学間の単位互換制度や図書館の相互利用、教職員・学生の交流など、多彩な活動を展開しています。

◎ 公開講座

公開講座「Explore the Design」は、武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジで2015年より行われている講座で、本学学生だけでなく、多くの社会人の方にも聴講いただいています。広大なデザインの世界を探求し、そのコアを見出すことをテーマに展開しています。

2016年度公開講座実績

第6回 2016年6月17日(金)　講師：北川フラム氏(アートディレクター)
第7回 2016年11月9日(水)　講師：佐藤卓氏(グラフィックデザイナー)
第8回 2016年12月9日(金)　講師：堺大輔氏(チームラボ取締役)

◎ 地域フォーラム

地域フォーラム「アート＆デザイン」は、武蔵野美術大学のエクステンション活動の一環として、地域社会へ文化的メッセージを発信し、地方との結びつきを模索するという目的で、武蔵野美術大学と同校友会の共催により全国各地で開催しています。

第 22 回武蔵野美術大学地域フォーラム
「アート＆デザイン 2016 愛知」～おわり の はじまり そして MIRAI～

2016年7月2日(土)　名古屋能楽堂にて
オープニング SPECIAL狂言：能楽師和泉流狂言方 十四世 野村又三郎
第1部 講演：木岡敬雄(竹林舎建築研究所代表)
第2部 シンポジウム：稲垣典世(トヨタ自動車株式会社先進技術開発カンパニーデザイン開発部 主査)、片岡祐司(名古屋芸術大学デザイン学部教授)、木村徹(川崎重工業株式会社 MC&E チーフ リエゾン オフィサー)

◎ 美術・デザインの普及・振興

美術・デザインの普及・振興を目的として、本学では多彩な取り組みを行っています。本学の学生が主体となって「対話型鑑賞」「ワークショップ」「公開制作」そして、中学校を美術館に変える「ムサビる！」の四つの企画を中心にした「旅するムサビプロジェクト」をはじめ、美術・デザインを学びたい高校生に、大学の教育研究について広く知っていただくための活動にも取り組んでいます。

内田あぐり日本画学科教授を講師に、愛媛県済美高等学校美術コースのキャリア教育の一環として行われた授業。高校の美術科教員とテーマを考え、“表現の根底を問う”というテーマで美術科生徒全員へ人体ドローイングを指導しました

◎ 課外講座

美術・デザインの専門大学としての特性を生かした自由なテーマで、国内外のアーティストやデザイナー、研究者を招いた課外講座を随時開催しています。講演、対談、シンポジウム、ライブなど形式は多彩で、訪問教授の講演や毎年恒例となったシリーズも開講されています。これらの講座は、学科を越えて広く学内に公開されています。

2016年度 課外講座一覧

『武蔵野台地と玉川上水の変容』
講師：小泉武栄(地生態学者、東京学芸大学名誉教授)

『美術、世代、焦燥など』
講師：前田岳究(美術家)

『玉川上水のタヌキを調べる』
講師：高槻成紀(保全生態学者、元東京大学総合博物館、麻布大学教授)

『INSTIGATOR #015』
講師：大根仁(映像ディレクター)

『虫の目線で見る社会』
講師：新里達也(元甲虫学会会長、明治神宮境内総合調査事務局長)

『第五回 寺子屋騒動「英国の美術大学の現状、演劇事情、大学事情を知る」』
講師：Kate Burnett(ノッティンガムトレント大学教員、舞台美術家、展示デザイナー)

『How to Design?』
講師：横河健(建築家、横河設計工房代表)

『著作権についての課外講座』
講師：福井健策(弁護士)

『言葉にできないもの』
講師：鈴木元(プロダクトデザイナー)

『第19回講義集会』
講師：加茂克也(KAMO HEAD代表、ヘアスタイリスト、メイクアップアーティスト)

『美術家×起業家対談「アート・人・地域」』
講師：開発好明(アーティスト)、原瀬優子(お祭りコンサルタント)

『場づくりのための「ものがたり環境」をデザインする』
講師：トリシア・オースチン(ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ・カレッジ 空間演出プログラムリサーチリーダー、博士課程スーパーバイザー、MA ナラティブ・エンバイロメンツ コースリーダー)

『指輪から店舗まで―デザインの過程と縮尺の話―』
講師：安積朋子(プロダクト・インテリアデザイナー)

『恐竜が生まれて滅びるまで』
講師：真鍋真(国立科学博物館地学研究部生命進化史研究グループ長)

『宇宙芸術』
講師：逢坂卓郎(筑波大学特命教授)

『食の人類史』
講師：佐藤洋一郎(国際歴史民俗博、国文学研究資料館、国立国語研、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研、国立民俗学博を束ねる、人間文化研究機構理事)

『ノートテイカー養成講座』
講師:三宅初穂(東京手話通訳等派遣センター要約筆記者)

『著作権についての課外講座2』
講師：小林利明(弁護士)

『数式で絵を作る。
―自然現象の数理モデルに基づくCG表現―』
講師：岩澤駿(東京大学大学院情報学環助教)

『"Neked"「ネイキッド」(裸そのもの)、
現代ダンスの今を語るドリス・ウーリッヒ』
講師：ドリス・ウーリッヒ(ダンサー)

『もうひとつの美術館 ―「子どもと芸術文化」の取り組みを通して―』
講師：三ツ山一志(横浜市民ギャラリー主席エデュケーター)

『「太陽系誕生から生命誕生まで」―地球史を読み解く―』
講師：丸山茂徳

『第20回講義集会』
講師：増田セバスチャン(アーティスト、アートディレクター)

『「フリーダ・カーロの遺品―石内都、織るように」上映会・トークショー』
講師：石内都(写真家)、小谷忠典(映画監督)、大澤一生(プロデューサー)

『生き物のつながり、人と自然のつながり』
講師：中村桂子(JT生命誌館館長、分子生物学、生命誌)

『ギター演奏で綴るポピュラー音楽の歴史と憲法』
講師：堀尾和孝氏(音楽家)

『監督するとは?』
講師：是枝裕和(映画監督)、林勝彦(元NHKプロデューサー、映像学科2年『ディレクター演習』特別講師)

『宇宙芸術2』
講師：逢坂卓郎(筑波大学特命教授)

『都美術館のキュレーション』
講師：河合晴生(東京都美術館学芸員)

『集落の幾何学』
講師：相沢韶男(本学名誉教授、民俗学、建築)

『宇宙と自然の幾何学』
講師：日詰明男(龍谷大学理工学部数理情報学科客員教授、建築家、数学家、音楽家)

『私がコンテンポラリージュエリー作家になるまで』
講師：周防絵美子(ジュエリー作家)

『ニュージーランドのガラス事情』
講師：エリザベス・マクルアー(ガラス作家)

『Desiging Energy for a Better World
―エネルギーをデザインして社会を変える』
講師：オオニシタクヤ(建築家、慶應義塾大学環境情報学部准教授)

『著作権についての課外講座3』
講師：鈴木里佳(弁護士)

『書と現代アート』
講師：潘微(客員教授)

『INSTIGATOR #016』
講師：都築響一(編集者)

『点から面へ』
講師：陳瑞(訪問教授、アーティスト)

『宇宙芸術3』
講師：逢坂卓郎(筑波大学特命教授)

『19世紀イギリスの美術教育における解剖学と古代』
講師：レベッカ・ウェイド(ヘンリー・ムーア・インスティテュート学芸員)

『「特異な空間へ」について ―自作を語る―』
講師：高木修(美術家)

『Interior Designer in South Africa, African continent and Middle east』
講師：平田敦士(インテリアデザイナー)

『Projects are not written on a blank page』
講師：ローレンス・マドリール(デザイナー)

『プリントアートの未来形』
講師：Ingrid Ledent(アントワープ王立美術学校教授)

『ダイバーシティって何？ ―LGBTや障害者支援からダイバーシティという考え方を知ろう―』
講師：外山雄太(株式会社 Letibee 取締役)、石川彩香(本学卒業生、株式会社LITALICO)

『「夜想」今野裕一が語る
作家になりたくない私、作家になれない私』
講師：今野裕一(『夜想』編集長、「パラボリカ・ビス」主宰)

『TONERICO:INC. のデザイン
―空間デザインの深さについて―』
講師：米谷ひろし(インテリアデザイナー)

『装潢文化財の劣化損傷』
講師：半田昌規(株式会社半田九清堂代表取締役、国宝修理装潢師連盟理事)

『影絵ワークショップ』
講師:川村亘平(ガムラン奏者、影絵師、イラストレーター)

『モノの見方の再発見』
講師：森前誠二(作庭師、盆栽職人)

『美術と医学』
講師：花山水清(モルフォセラピー主宰)

『エッシャーとサイケデリック数学』
講師：日詰明男(造形作家)

『#Gaffer life ―ガラスの彫刻的表現の可能性』
講師：Scott Darlington(Studio Maneger at PRATT FINE ARTS CENTER Glass Artist)

『地球永住計画連続講座
「死なない子供」荒川修作の場づくり』
講師：本間桃世(荒川修作＋マドリン・ギンズ東京事務所代表)

『法律に関する課外講座
―働く際に必要な法律等について―』
講師：江添昌幸(東京労働局雇用環境・均等部指導課雇用環境改善・均等推進指導官)

『The Opinion of Things』
講師：Olivier Richon

『著作権についての課外講座4』
講師：福井健策(弁護士)

『On the exhibition 地上の道のように』
講師：JUNG YEON DOO(アーティスト)

『絵と言葉』
講師：スタシス・エイドリゲヴィチウス(画家、絵本作家)

『玉川上水・生き物調べの今期の成果』
講師：高槻成紀(麻布大学いのちの博物館上級研究員)

『現代組織運営の方法論 ―ポーラ・オルビスグループの経営メソドロジー、ポーラ美術館のミュゼオロジーについて』
講師：鈴木郷史(財団法人ポーラ美術振興財団理事長、株式会社ポーラ・オルビスホールディングス代表取締役社長)

『INSTIGATOR #017』
講師：トータス松本(ミュージシャン)

『バングラディッシュの現代美術とパフォーマンス・アートの現在 Contemporary Art and Performance in Chittagong, Bangladesh』
講師：JOYDEB ROAJA(アーティスト)

『誰がどのように牛、豚を屠っているのか』
講師：栃木裕(東京都芝浦屠場労組委員長)、宮崎勇気(東京都芝浦屠場職員)

『何のためにデザインするのか』
講師：長谷川哲士(minna、デザイナー)、角田真祐子(minna、デザイナー)

『1970～80年代インテリデザイン「デザインとアートの融合か格闘か」』
講師：杉本貴志(インテリアデザイナー、本学名誉教授)、鈴木紀慶(編集者、本学非常勤講師)

『「ワンダリング・ポジション」さまよえる位置』
講師：柳幸典(現代美術作家)

『Mapping the sound ecology of Antarctica』
講師：Philip Samartzis(オーストラリアRMIT助教授、サウンドアーティスト)

◎ 学生生活サポート

学生たちが日々の生活における不安を感じることなく、安心して学生生活を送れるように、こころのケアや健康相談、住まい探しなど、様々な支援を行っています。

学生相談室

学生相談室では、学生生活を送る中で出てくる様々な不安や悩み、困っていることを聞き、解決のためのサポートをしています。授業、進路・就職、友人・家族関係、心やからだに関する悩みや、性についての悩みやトラブル、人生や性格のこと、災害時のこころのケアなどの幅広い相談に、臨床心理士、精神科医、教員相談員が対応しています。

保健室

校医や相談医が、通学・下校時や正課中のケガの応急処置や健康相談、大学周辺の医療機関案内などに対応しています。また、定期健康診断の実施や健康診断証明書の発行、学校で予防すべき感染症や、熱中症、インフルエンザ、食中毒、ノロウイルス、麻しんについての予防法・対処法なども紹介しています。

住居サポート

「株式会社共立メンテナンス」に業務委託し、学生が大学周辺で安心して暮らせるアパートや推薦寮の紹介を行っています。また、2014年4月より、本学学生のみが利用できる専用学生寮を開設しました(管理・運営：株式会社共立メンテナンス)。朝・夕2食付で、寮長・寮母が常駐する寮内にはアトリエルームを完備し、学びに集中できる環境を用意しています(学生寮は留学生と女子学生専用です)。

ハラスメントの防止

本学の学生、教職員は、教育・研究・学修・就労するにあたって、等しく良好な環境を享受する資格をもっており、性・年齢・出身地の違いなどにより、不利益をこうむることがあってはなりません。本学では、個人の尊厳を傷つけるハラスメントを防止し、被害が生じた場合の公正な救済を保障することで、適正な教育・研究・学修・就労環境の実現に積極的に取り組んでいます。

アルバイトの紹介

(財)学生サポートセンターが指導する(株)ナジック・アイ・サポートの求人情報提供サイト「学生アルバイト情報ネットワーク」を活用して、本学学生に向けたアルバイトの紹介を行っています。

留学生サポート

外国人留学生が充実した学生生活を送れるよう、留学生活や在留についての相談の受け付けや、医療機関をはじめとする各種機関の案内など、きめ細やかなサポートを行っています。

障害者学修支援

本学は、障害を理由とする差別の解消を目的に、障害のある学生(保証人含む)からの要望により、個々の学生の状態・特性等に応じて、適切な支援を提供する取り組みを行っています。

共通の支援内容※	○窓口における支援	文章による説明、筆談、書類代筆
	○授業及び講座、研修における支援	最前列確保、授業開始時間の遅れ配慮(移動時間) 休講情報のメール配信
	○担当教員・講演者への支援事項の伝達、協力要請	支援による部外者の同席、補聴システムの使用
聴力障害※	○授業における支援	ノートテイク配置、休講情報のメール配信
肢体不自由※	○授業、講演、研修教室の支援	車椅子移動可能教室への変更、移動への補助支援
精神障害・発達障害・その他障害、入学試験関連の支援	○別途相談	

※上記以外の支援を希望する場合は別途相談。

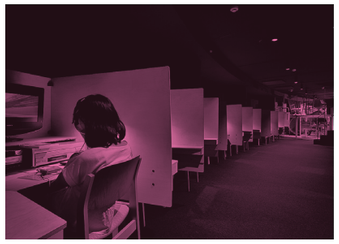
1967年に「美術資料図書館」として開館した「武蔵野美術大学 美術館・図書館」は、大学美術館と大学図書館としての二つの大きな機能を持ちながら、さらに民俗資料室とイメージライブラリーを有する「美と知」を統合したキャンパスのシンボルです。美術館、図書館、博物館機能が一体化した「知の複合施設」として、図書資料、美術・デザイン作品、民俗資料、映像資料など、それぞれ属性や扱いの異なる様々な資料群を有機的に結びつけて横断的に活用することができます。

美術館活動

美術やデザイン、工芸品などの収集・保存、データベースの構築、展覧会の企画・開催、図録の編集・発行などを行っています。特に、約3万点におよぶポスターと約400脚の近代椅子は、デザイン研究の基礎資料として、社会的にも大きな意義を持つコレクションです。また、展覧会の企画には本学教員も参加しており、実践的な学習の場として学生も積極的に参加するなど、大学美術館ならではの体制が整っています。会期中には講演、シンポジウム、アーティストトークなど、様々なイベントを開催しています。

図書館活動

美術・デザインを中心に約29万冊の図書資料、約5,000タイトルの和・洋雑誌、各大学の研究紀要、展覧会カタログ、映像資料などを収集・保管しています。特に、5,000冊を超える絵本コレクションや、近代デザイン研究のためのグラフィックデザインコレクションは、学術的な研究資料として内外の注目を集めています。ICT技術を活用したブックタッチや無線LANを導入した学習空間を整備し、多摩アカデミックコンソーシアムという大学協力機構を活用することで、近隣の6大学の図書館を自由に利用できます。

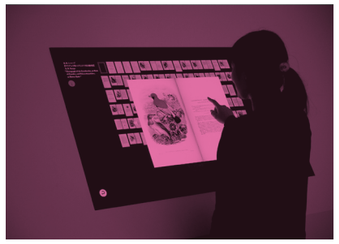


イメージライブラリーの活動

美術館棟の2階にあるイメージライブラリーは、図書館のセクションとして、約2万点の映像資料を所蔵し、映像表現の研究の場として一翼を担っています。映画、ドキュメンタリー、アニメーション、実験映像などの作品をキーワード検索できる独自のシステムも稼働し、映像講座の開催や情報誌の発行も行っています。

民俗資料室の活動

13号館にある民俗資料室は、様々な民具(生活道具)の収集・保存・公開を行っています。民俗学者・宮本常一を中心とした生活文化研究会による資料をはじめ、日本観光文化研究所の寄贈資料や、写真家・薗部澄氏による郷土玩具のコレクションも貴重な資料です。これらは同ギャラリーにて順次、展示・公開しています。



造形研究センターの活動

文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択を得て、2008年に設置された造形研究センターは、専門領域と学科の枠を超えた横断的かつ先進的な研究を行う全学共同の研究施設です。美術館・図書館が所蔵する図書資料及び美術・デザイン資料の保存活用・公開のためのデータベース構築を進めています。

鷹の台キャンパス

東京の郊外、玉川上水が流れる小平・鷹の台に本学のメインキャンパスがあります。文化勲章を受章した建築家・故芦原義信名誉教授のマスタープランのもとに設計・建設され、1961年に開設されました。約11万㎡の敷地に、法人本部・造形学部・大学院が置かれ、多様な創造活動と充実した学生生活をバックアップする様々な環境・施設が整っています。

〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736

吉祥寺校

吉祥寺校は、1929 年帝国美術学校として創設された本学発祥の地であり、東京都武蔵野市に位置しています。およそ3,400㎡の敷地内には、本学の造形を中心とする大きな教育ネットワークの一翼を担っている武蔵野美術学園と通信教育グループ、校友会事務局、また、通信教育課程の教科書の編纂などを担当する武蔵野美術大学出版局が置かれています。

〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7

三鷹ルーム

JR中央線・総武線「三鷹」駅より徒歩４分の好立地にある三鷹ルームは、通信教育課程週末スクーリングの「三鷹教室」として、また大学や各学科主催による展示発表、公開講座、インフォメーションなど、ムサビと社会を結ぶ窓口として機能しています。

〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-19-3 武蔵野YSビル6F

武蔵野美術学園

実技中心の美術教育の場、生涯学習の場として1969年に設立されました。高等学校卒業もしくは同等の学力であれば、美術を基礎から学ぶことができます。専攻は、絵画・彫刻・日本画・版画・イラストレーション・グラフィックデザインの六つで、基礎・専門・研究課程を設けています。

〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7

gallery αM

1988年、武蔵野市吉祥寺に「ギャラリーαM」を開設以来、現代美術における新人発掘と、その発表の場を提供してきました。2009年４月からは、ジャンルを問わず質の高い表現と可能性を有するアーティストに作品発表の機会を提供すること、社会に斬新な価値を発信できるキュレーターに展示企画の場を提供することを目的として、東京・馬喰町にノンプロフィットギャラリー「gallery αM」を開設しました。都市の恒常的空間に、発表とキュレーションのダイナミックな関係を創出します。

デザイン・ラウンジ

2012年４月、東京ミッドタウン・デザインハブ内に、デザインを基軸とした情報発信拠点として開設されました。「ラウンジ」とは、社交室・休憩室や待合室を指す言葉ですが、「武蔵野美術大学が社会と社交する場・談話する場」という「集う」イメージと「デザインハブから社会へ出発（発信）する場」という「起点」のイメージをコンセプトとしています。公開講座や展示、企業・団体と連携した研究会やイベントを企画・実施し、これからのデザインやデザイン教育について議論しながら美術大学の社会貢献力を強め、社会と大学とが新しいかたちで繋がる環境を創出しています。

奈良寮

奈良県奈良市にある「奈良寮」は、学生、教職員、校友が広く利用できる福利厚生施設です。貴重な文化遺産が多く残る京都・奈良への研究旅行の拠点として、奈良市内の、正倉院にほど近い絶好の場所にあります。この建物は、日本美術院に所属し、国宝や重要文化財の修復に大きな功績を残した故新納忠之介（にいろちゅうのすけ）氏の旧宅で、この地方に独特な大和棟高塀造の民家です。本学では、その本来の美しい姿をとどめながら、快適に宿泊・滞在できるよう、保存と活用を両立した改修復元を行っています。

五箇山「無名舎」

富山県南砺市にある「無名舎」は、本学有志を中心とした民芸研究グループ「無名会」から寄贈された合掌造りの民家を、研究と保養のための施設として改修した福利厚生施設です。越中五箇山の大自然とその風土に培われた合掌造りの民家は、1996年、岐阜県白川郷とともに世界文化遺産にも加えられました。また近年には、平家の落人の伝統を引き、和紙の産地としても知られる地元、旧平村地区との交流も行われています。

武蔵野美術大学出版局

吉祥寺校に設置されている武蔵野美術大学出版局は、ユニバーシティ・プレスとして、大学の教育・研究を支援し、大学と社会を結ぶ機関として、学術文化に関わる広範囲な出版活動を展開しています。特に通信教育課程の教科書群は、美術やデザインへの知的・技術的欲求に応えるテキストとして、広く一般に向けて刊行されています。2004 年には「MAU ライブラリー」を創刊し、特色ある書籍を刊行しています。また近年では、大学のグッズ「MAU グッズ」シリーズの製作・販売も手がけています。

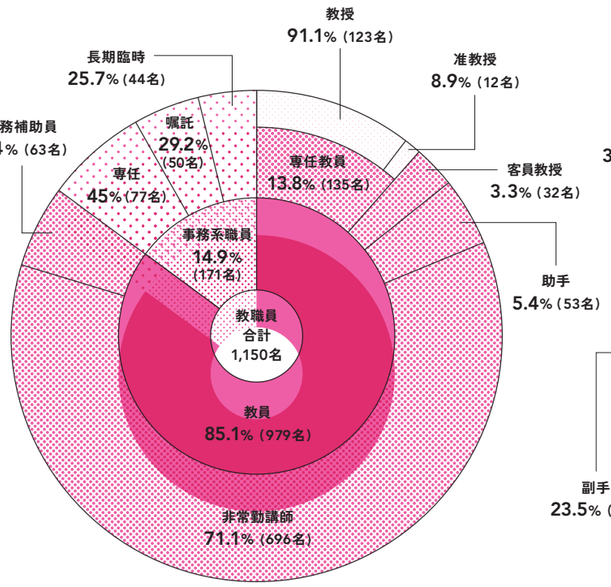
武蔵野美術大学校友会

武蔵野美術大学校友会は、武蔵野美術大学を卒業（修了）した卒業生全員が参加・運営する組織です。卒業または修了と同時に、全員が会員となります。当会は会員相互の親睦、母校への寄与、後輩への支援、社会への貢献を軸に活動しています。

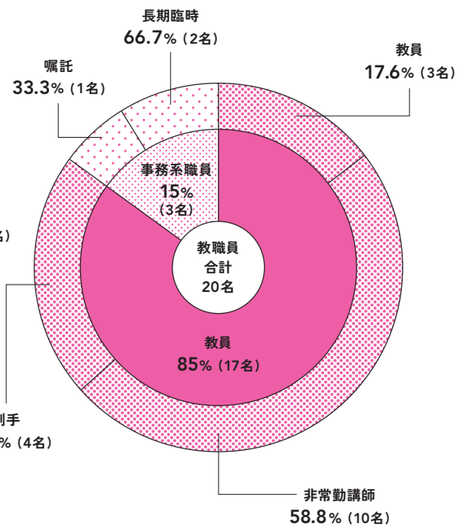
◎ 教職員数（2016年5月1日現在）

本学で美術・デザインを指導する専任教員の多くが、第一線のアーティスト、デザイナーとして活躍中であり、一般教育などでも様々なジャンルで活躍を続ける研究者を専任教員として採用しています。美術、デザインといった専門分野以外の教員の多くを専任教員として積極的に採用しているのは、美術系大学の中での本学の特徴のひとつです。また、教育研究の発展を推し進めるため、客員教授の拡充も図っています。

武蔵野美術大学、武蔵野美術学園で働く教職員とその内訳



武蔵野美術大学



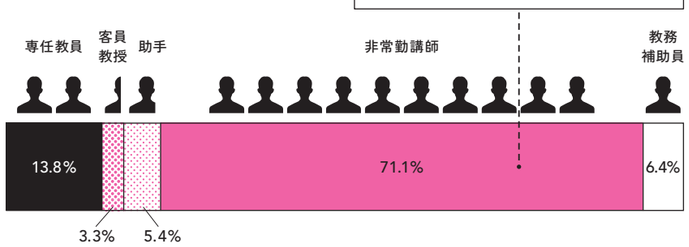
武蔵野美術学園

非常勤講師の割合

多様化・専門化する美術、デザインの現場において、専任教員がカバーしきれないようなジャンルを補うためにも、非常勤講師を数多く配置しているのが本学の特徴です。非常勤講師は他大学等に本務がある者や、非常勤講師を専業とする者だけでなく、幅広く社会で活躍しているアーティストやデザイナー等の専門家にも指導を依頼しています。

武蔵野美術大学で働く非常勤講師の割合

武蔵野美術大学の場合、非常勤講師は教員の約70%を占めています。



◎ 教員一覧（2017年3月31日現在）

日本画学科
◎教授（主任）
内田あぐり

◎教授
尾長良範
西田俊英
山本直彰

◎客員教授
北澤憲昭
栗林隆
土屋禮一

◎講師
荒井経
岩田壮平
柏原由佳
熊澤未来子
酒井祐二
阪本トクロウ
松谷千夏子
吉田有紀

油絵学科
◎教授（主任）
水上泰財

◎教授
赤塚祐二
池田良二
遠藤彰子
遠藤竜太
樺山祐和
川口起美雄
小林孝亘
高浜利也
長沢秀之
袴田京太朗
丸山直文

◎客員教授
磯見輝夫
木下晋
町田久美

◎講師
［油絵専攻］
池田哲
池田光弘
石川卓磨
泉原昭人
岩熊力也
小尾修
金田実生
小林耕平
佐藤万絵子
Jaime Humphreys
塩谷亮
竹内一
玉虫良次
永山裕子
保坂毅
細川貴司
増田常徳
箕輪亜希子
山本一弥
吉岡正人

［版画専攻］
木村友香
鈴木吐志哉
鷹野健
武田律子
常田泰由
永澤孝博
堀藍
元田久治

彫刻学科
◎教授（主任）
戸谷成雄

◎教授
伊藤誠
黒川弘毅
三沢厚彦

◎客員教授
遠藤利克
岡崎乾二郎
髙柳恵里

◎講師
アズビー・ブラウン
牛島達治
窪田美樹
桑名紗衣子
牛膓達夫
冨井大裕
西尾康之
細井篤
丸山富之
米原昌郎

視覚伝達デザイン学科
◎教授（主任）
新島実

◎教授
キュー・ジュリヤ
後藤吉郎
齋藤啓子
白井敬尚
陣内利博
寺山祐策
西本企良
古堅真彦
本田和男

◎客員教授
荒俣宏
中島信也
森本千絵

◎講師
浅井治彦
石井雄一郎
石垣貴子
石塚英樹
宇井眞紀子
上田和秀
氏家真清
大庭弘之
大和田龍夫
岡田憲明
岡村健一
梶田渉
片山裕
加藤賢策
君塚洋一
木村文敏
倉方雅行
黒田敏康
小出正志
佐井国夫
斉藤好和
佐久間崇
迫村裕子
澤田耕一
島本脩二
杉下城司
杉本浩
鈴木功
鈴木基真
ダイノサトウ
滝川修志
田中晋
棚橋早苗
谷田幸
塚本純久
飛山裕幸
中野豪雄
中村成一
西尾彩
西中賢
長谷川敦士
花崎攝
樋口景一
樋澤明
北條みぎわ
堀口裕美
丸山幸夫
武藤努
室賀渓徳
森田健一
山口弘毅
山本太郎
横山宏
吉川義盛
吉田謙二

工芸工業デザイン学科
◎教授（主任）
十時啓悦

◎教授
伊藤真一
稲田真一
大村俊二
鈴木洋
田中桂太
中原俊三郎
西川聡

◎准教授
鈴木純子
山中一宏

◎客員教授
志村美治
名児耶秀美
樋田豊郎

◎講師
磯谷慶子
岩田綾
内山純
榎本倫顯
岡本玲子
鬼束恵司
片平隆行
熊谷幸治
倉本仁
近藤嘉男
下重泰江
神藤修
鈴掛玲
鈴木健
鈴木伊美
祖徠友香子
高橋勇一郎
田中啓一
田淵滋
近岡令
冨樫業子
内藤衛
中川岳二
中島良弘
西村拓紀
根本隆一
萩原千春
林宏
藤井常雄
藤原敬介
丸岡勇太
宗像重幸
守田文雄
山下陽三郎
山田尚弘
渡辺衆

空間演出デザイン学科
◎教授（主任）
堀尾幸男

◎教授
天野勝
五十嵐久枝
太田雅公
片山正通
小泉誠
小竹信節
津村耕佑
パトリック・ケビン・ライアン

◎准教授
鈴木康広

◎客員教授
島次郎
面出薫

◎講師
秋山光洋
池田ともゆき
伊坂重春
石黒敦彦
伊藤淑恵
内山敬子
遠坂卓郎
大沢佐智子
大山由美子
小野直紀
角田陽太
上條桂子
亀森一好
川端富生
北川陽史
君塚賢
國時誠
小谷壽一
佐藤昌孝
眞田岳彦
沢瀬学
澤田隆一
清水悟
清水早苗
庄野泰子
信耕ヒロ子
杉山純
鈴木親
鈴木紀慶
鈴木勝
鈴野浩一
代島多枝
高橋晃
武石正宣
立花文穂
谷昌和
谷口勝彦
谷尻誠
月岡彩
寺田尚樹
トースティー
遠山正道
長岡勉
中川淳
長峰麻貴
根本育洋
能美健志
橋本徹也
服部基
濱西恵子
早川誠也
原田麻子
樋口藍
樋口吉徳
藤森泰司
古川巳代子
毬谷友子
宮澤謙一
本広克行
山口宏子
山下裕子
山本侑樹
横川正紀
吉田真実
和田喜夫

建築学科
◎教授（主任）
布施茂

◎教授
鈴木明
高橋晶子
長谷川浩己
源愛日児

◎准教授
菊地宏

◎客員教授
アストリッド・クライン
土屋公雄
横河健

◎講師
青木弘司
芦沢啓治
伊藤裕久
岩下泰三
上田明宏
江村哲哉
大井早苗
大嶋信道
大野暁彦
岡本真理子
興松良昌
小倉康正
笠置秀紀
片瀬一郎
加藤修
金光弘志
河内孝夫
川口有子
川村政治
岸田省吾
木津雅代
桑田豪
小泉一斉
河内一泰
河野有悟
児玉治彦
後藤茂
小林敦
小林和夫
小松宏誠
小宮功
齊藤祐子
笹口数
佐藤至
渋江桂子
鈴木賢人
砂山太一
住吉正文
園田有児
田尾玄秀
髙沖哉
田口明美
田原唯之
常山未央
戸井田雄
中村幸悦
新関謙一郎
林英理子
原田将史
彦根アンドレア
藤田修司
細矢仁
増田信吾
松井晃一
三浦清史
三家大地
元木大輔
山内彩子
山田茂雄
祐乗坊進

基礎デザイン学科
◎教授（主任）
原研哉

◎教授
小林昭世
柴田文江
板東孝明
菱川勢一
宮島慎吾
吉田慎悟
◎客員教授
梅原真
佐藤啓一

◎講師
安斎利洋
稲垣諭
小口裕史
小野生
小原穣
織咲誠
海保透
加藤幸枝
川間哲夫
木村雅彦
小松知茂
齋藤岳郎
佐々木郁子
佐藤篤司
沢豊彦
沢良子
篠崎晃一
下村純一
白濱力
末廣伸行
杉本雅子
田邊学
玉川博章
堤一郎
中島淳雄
西澤弘行
野口正治
蓮池公威
平尾始
平野昌太郎
藤田総宣
松浦寿夫
松野良則
目良敦
森田衣起
諸橋泰樹
安原七重
山添崇
山本太郎
吉田隆
吉永晴彦

映像学科
◎教授（主任）
板屋緑

◎教授
黒坂圭太
小口詩子
小林のりお
篠原規行
クリストフ・シャルル
三浦均
山崎博

◎客員教授
石茂雄
内館牧子

◎講師
青石太郎
浅野優子
飯田鉄
伊藤時男
梅本眞
大嶋浩
大田晃
岡太地
岡川純子
小川明日香
金子隆一
紙屋牧子
栗芝正臣
小柳淳嗣
雑賀雄二
坂口トモユキ
坂元祐介
霜田誠二
JOU
菅沼比呂志
鈴木厚志
髙橋明洋
瀧健太郎
竹中義明
田中昭史
谷口暁彦
戸塚太郎
豊田堅二
新谷尚之
根間太作
野村叔子
橋爪慧
橋本直明
橋本典明
橋本典久
畠中実
原田浩
藤木淳
藤田純夫
松野良則
松本夏樹
宮下晃久
村田豊彦
元木みゆき
森田衣起
山倉一樹
山崎連基

芸術文化学科
◎教授（主任）
椹義明

◎教授
是枝開
杉浦幸子
髙島直之
新見隆
米徳信一

◎客員教授
ナガオカケンメイ
西中賢
林家たい平

◎講師
安斎聡子
石黒敦彦
磯達雄
伊藤剛
伊藤里麻子
今井良朗
梅田亜由美
小川希
長内研二
小田嶋孝司
垣内恵美子
加島卓
嘉藤笑子
加藤庸子
金子隆一
河原啓子
官浪辰夫
菊池宏子
倉林靖
沢山遼
申明浩
杉山享司
鈴木紀慶
鈴木勝
田中七星
田中眞奈子
千葉慶
塚本文雄
鶴岡明美
中島智
橋本薫
花光里香
林浩平
林容子
姫井理子
平野覚堂
堀越洋一郎
松浦昇
村田良二
森啓輔
結城康太朗
若山滋
渡邊敦彦

デザイン情報学科
◎教授（主任）
佐藤淳一

◎教授
井口博美
今泉洋
白石学
長澤忠徳
森山明子

◎准教授
井上尚司
高山穣

◎客員教授
中島信也
村井純

◎講師
赤池学
阿部卓也
石浦克
大嶋浩
太田伸志
岡崎章
岡本慶一
沖啓介
小野生
菊地俊公
木下謙一
草野剛
江津匡士
小西俊也
佐々木幸弥
佐藤篤司
里見慶
篠崎晃一
柴田英喜
白田秀彰
新保韻香
末延素
杉下城司
髙橋明洋
瀧本往人
田崎和隆
棚橋早苗
玉井美由紀
照井亮
富谷智
中野希大
仲俣暁生
花光里香
本田晃一
村上千博
横田克己
渡辺真太郎

デザイン情報学科（情報表現）
◎講師
井出はるか
上田あい
内田聖良
岡太地
木谷篤
小西俊也
照井亮
西垣由紀子
星野耕史
松川祐子
渡辺真太郎

教養文化・学芸員課程
◎教授（主任）
白石美雪

◎教授
今岡謙太郎
小幡正敏
神野善治
佐久間保明
志田陽子
関野吉晴
富松保文
圓山憲子
廖赤陽

◎准教授
荒川歩
宮原ひろ子

◎講師
井上浩義
今村啓爾
伊村智
金井隆典
狩野愛
北沢裕
久米宗隆
國土潤一
小島智章
小薮大輔
小山悠
申惠丰
新堂精士
鈴木一義
鈴木朋子
竹中真也
谷口善仁
筒井亜湖
長倉洋海
真嶋麻子
真島麗子
森達也
山本尚樹

言語文化
◎教授（主任）
野口克洋

◎教授
相原優子
藤田尊潮
ポール・カンダサミ

◎准教授
小澤智子
三代純平

◎講師
［英語］
青木宏
井上徹
大木理恵子
太田美智子
木下裕太
楠香織
クレイグ・シスマン
近藤ゆう子
西前明
佐藤王子
更科加代子
高橋恵
田辺章
長尾主税
中川智視
中村優治
成瀬俊一
濱田里美
峰松和子
森山敬子

［フランス語］
今村純子
小幡一雄
勝田千恵子
齋藤雅久
杉村裕史
竹田千穂
中原暁彦
森本謙子
森本文彦

［ドイツ語］
酒井能成

教職員・役員 / FACULTY AND STAFF

杉山有紀子
柳勝己

［イタリア語］
尾河直哉
中矢慎子
横田太郎

［中国語］
何旭

［韓国語］
蔡洙静
チョン・ホソン

［日本語］
佐藤正則
古屋憲章

［スペイン語］
田中マルタ

身体運動文化
◎教授（主任）
青沼裕之

◎教授
森敏生

◎准教授
北徹朗

◎講師
大貫耕一
荻山幸子
里見悦郎
白井巧
高橋宗良
早川みどり
ハラルド・ボルスター
平野和弘
藤村武
望月康司
矢田部英正

簗田陽子
横森茂樹
吉野由布子
鷲谷浩輔

造形文化・美学美術史
◎教授（主任）
朴亨國

◎教授
柏木博
北澤洋子
篠塚千恵子
田中正之
玉蟲敏子
松葉一清

◎客員教授
樺山紘一
松原茂
明珍素也

◎講師
足立元
井口壽乃
上村清雄
海老澤模奈人
加島勝
木田拓也
楠根圭子
櫻庭美咲
下野玲子
鈴木希帆
平晃子
髙橋幸次
高橋真作
瀧井直子
田中知佐子
塚本麿充
鶴岡明美
鶴見香織
戸田昌子
長沼行太郎
萩原哉

原浩史
福島修
藤井明
松井勝正
松浦寿夫
松崎照明
宮坂直樹
宮崎匠
森美智代

共通絵画
◎教授（主任）
大浦一志

◎教授
原一史
山本靖久

◎講師
一色映理子
伊藤史
今井俊介
加藤健二
上楽寛
神彌佐子
結城康太朗
渡辺えつこ

共通彫塑
◎教授（主任）
脇谷徹

◎教授
鈴木久雄
戸田裕介

◎講師
櫻井かえで
髙野正晃
多和圭三
松本隆
箕輪亜希子
村井一貴
諸貫きよ恵

山本一弥

共通デザイン
◎教授（主任）
小井土滿

◎客員教授
潘微

◎講師
秋野琢
榎本倫顕
角文平
川口光一
小松弘道
神藤修
徂徠友香子
竹田精一郎
田中行彦
谷浩二
内藤衛
中川岳二
林宏
藤井常雄
藤田恵美
藤原啓克
松田崇
水田徹
宗像重幸
湯村光

教職課程
◎教授
伊東毅
大坪圭輔
高橋陽一
三澤一実

◎講師
有福一昭
桂瑠以
川本雅子
北沢昌代
佐藤清親

杉山貴洋
髙野一
田中千賀子
永関和雄
鍋島尚子
葉山登
渡辺典子

◎講師
（学芸員課程）
安齋順子
木下史青
塚本純久
畠山豊
樋口潤一
藤平真樹子
三浦定俊
山本育夫
呂俊民

通信教育課程
◎教授（主任）
三浦明範

◎教授
上原幸子
小野皓一
金子伸二
重政啓治
白尾隆太郎
田中克明
田村裕
永井研治
牧野良三

◎准教授
清水恒平

◎講師
［造形文化科目］
浅井千絵
足立純子
池永一夫
伊藤恵夫

井上雅人
今村純子
上田卓司
江森敏夫
大清水薫
岡山理香
尾久彰三
小幡一雄
加藤義夫
金田真滋
亀井好恵
川崎雅裕
川本雅子
楠根圭子
小石絵美
小島智章
近藤嘉男
齋藤佳代
坂本明子
佐藤典司
澤村さち子
渋江桂子
島森功
下迫真理
白井巧
新堂精二
杉山聡
杉山貴洋
平晃子
高橋宗良
竹末俊昭
田沢恭子
寺田詩麻
遠矢龍之介
長岡由美子
中島純子
中野めぐみ
萩原哉
林司
細井眞子
松本亜実
森山漸
諸橋泰樹
山岡俊樹

［造形総合科目］
足立正
井上智史
植木基博
上田和秀
臼井新太郎
太田守重
大竹紀美代
大野彩
大原大次郎
奥村梨枝子
落合勉
河村要
喜井豊治
木多美紀子
木村文敏
小池利佳
小林良一
近藤理恵
サダヒロカズノリ
柴田克哉
高崎葉子
竹中義明
中尾早苗
成田達哉
西川陽子
野崎麻理
野田昇一郎
樋口誠
福井政弘
藤田寿伸
古川巳代子
丸田直美
望月重太朗
守山久子
山内道彦
山本晶
山本篤子
米内則子

［油絵学科］
阿部英幸
伊藤仁
今井庸介

大家泰仁
加藤健二
金子善明
木村繁之
木村真由美
小森琢己
佐々木敵
清水健太郎
神彌佐子
瀬島匠
中島千剛
東俊行
星晃
松村繁
山本明比古
吉川民仁
和田雄一
渡邊洋

［工芸工業デザイン学科］
伊坂重春
大抜久敏
官浪辰夫
車田幸道
桜井隆樹
下重泰江
杉本孝夫
髙橋勇一郎
谷浩二
富谷智
中島良弘
萩野美有紀
萩原千春
福田弘
山本博一
渡辺衆

［芸術文化学科］
足立圭
榎本寿紀
岡しげみ
岡川純子
嘉藤笑子

河原啓子
神庭信幸
小金沢智
坂上桂子
紫牟田伸子
高橋世織
田中洋江
中島智
弘中智子
堀越洋一郎
前多令子
松永康

［デザイン情報学科］
朝比奈ゆり
石垣貴子
石塚英樹
氏家真清
小西俊也
角めぐみ
棚橋早苗
深澤涼子
松川剛之
宮林裕二郎
藪内新太
山口弘毅
山田興生

［教職科目］
北沢昌代
栗田るみ子
桑田直子
小林道夫
大間敏行
田中千賀子
中尾美月
橋本萌
葉山登
松本敏裕
山口正己
渡辺典子

◎ 法人役員・大学役職等（2017年3月31日現在）

法人役員
◎理事長
天坊昭彦

◎理事・学長
長澤忠徳

◎理事
木村修三
富松保文
長沢秀之
中島信也
高橋恭平
古河直純
宮崎晋
向山卓二

◎監事
小川昭夫
幸島祥夫

評議員
大坪圭輔
篠原規行
白尾隆太郎
鈴木久雄
長沢秀之
浅見和之

上野敬子
増古憲一
井上搖子
中島信也
部谷京子
松家克
天坊昭彦
長澤忠徳
木村修三
富松保文
高橋恭平
栗屋容子
市川政憲
大沼信之
小石新八
谷口正和
船曳鴻紅
古河直純
宮崎晋
向山卓二

大学役職等
◎学長
長澤忠徳

◎学長補佐
遠藤竜太
篠原規行

富松保文
森敏生
白尾隆太郎

◎通信教育課程課程長
白尾隆太郎

◎美術館・図書館館長
赤塚祐二

◎造形研究センター
センター長：
赤塚祐二

◎武蔵野美術学園
学園長：丸亀敏邦

名誉教授
根岸正
寺田秀夫
柳澤和子
松樹路人
加茂詮
堤浪夫
泉修二
磯辺辰夫
高田一郎
保田春彦

水尾博
大西慶憲
駒込繁芳
勝井三雄
田邊三郎助
青木正夫
島崎信
向井周太郎
安部泰人
竹山実
田中栄作
田村善次郎
橋本梁司
綱戸通夫
伊藤高弘
小池一子
真田日呂史
那須勝哉
最上壽之
藤枝晃雄
朝倉重治
小石新八
小谷育弘
長谷川堯
及部克人
森江健二
千々岩英彰
横溝健志

馬杉宗夫
甲田洋二
酒井道夫
森豪男
立花直美
川口直次
堀内貞明
杉本貴志
齋藤昭嘉
下村千早
滝沢具幸
山本唯博
田中秀穂
髙市美千佳
椎名純子
小松誠
相沢韶男
寺原芳彦
宮下勇
鈴木民保
長尾重武
今井良朗
三浦耐子

◎ 学務事務組織（2017年3月31日現在）

事務統轄：木村修三

［法人企画グループ］
法人企画グループ長：千羽一郎
法人企画チームリーダー：井上雅裕
社会連携チームリーダー
研究支援チームリーダー（兼）：千羽一郎
IRチームリーダー（兼）
広報チームリーダー（兼）：井上雅裕

［総務グループ］
総務グループ長：増古憲一
総務グループ長補佐
（都心キャンパス・学園・ネットワーク担当）：
福本章
総務チームリーダー（兼）：増古憲一
施設管財チームリーダー：橋本英明
経理チームリーダー：佐藤真也

［学生支援グループ］
学生支援グループ長：浅見和之
学生支援グループ長補佐
（学長室担当）：加藤徹
学生支援グループ長補佐
（学務・教務担当）：高田立子
教務チームリーダー（学務担当）：磯崎秀雄
教務チームリーダー（教務担当）：毛利貴之
学生生活チームリーダー：村岡弘章
キャリアチームリーダー：澤野誠人
国際チームリーダー：畠山香里
入試チームリーダー：田村仁

［通信教育グループ］
通信教育グループ長：伊藤貴史
通信教育チームリーダー：江崎元

［美術館・図書館グループ］
美術館・図書館グループ長：上野敬子
美術館・図書館グループ長補佐
（造形研究センター・展覧会担当）：猪又正弥
美術チームリーダー：平出哲朗
図書チームリーダー：沢田雄一

［監査チーム］
監査チームリーダー：野中剛

［武蔵野美術学園事務室］
学園事務室長（兼）：伊藤貴史

ANNUAL REPORT

事業の概要

学校法人武蔵野美術大学は、平成26年3月26日に開催された理事会において、平成26年度から平成33年度までの第1次中長期計画を策定した。同中長期計画では、18歳人口が安定的に推移する平成26年度から平成29年度までの4年間を第一期、安定期を経て再び減少を始め減少速度が加速する平成30年度から平成33年度までの4年間を第二期と位置づけ、明確なミッション、ビジョンのもと、第一期の間にビジョン実現の基礎を確立することを目指している。
なお、本中長期計画は、法人を取り巻く諸状況の変化や事業構想の進捗状況等により逐次修正を図るものとし、第一期末(平成29年度末)には、その間の評価・総括のもと、第二期の計画見直しを行うものとする。
2016(平成28)年度は、8年に渡る第1次中長期計画の3年目に当たり、事業計画に重点課題として設定した主要8項目について検討・実施を進めた。

1. 教育研究組織の改編等 P. 37

○ 武蔵野美術大学では全学的な会議体「新構想会議」において、教育研究組織改編の議論を行った。また、武蔵野美術大学教育改革助成制度を設け、教育改革に資する取り組みの推進を図った。
○ 武蔵野美術学園の平成29年度末閉園への着実な手続きを実施した。

2. 教育環境充実に向けたキャンパス整備 P. 37

○ 鷹の台キャンパスでは都市計画道路小平3・3・3号線築造工事に伴うキャンパス整備や、既存建物の大規模改修、バリアフリー対応工事等を実施した。
○ 本学と社会を結ぶ新たな拠点として、東京都武蔵野市に「武蔵野美術大学三鷹ルーム」(通信教育課程三鷹教室)を開設した。

3. 美術館・図書館機能の充実 P. 38

○ 本学の教育研究の象徴的機関として一層の機能充実を図るため、美術館では展覧会活動の多様化と内容の充実を図り、図書館においては研究室との連携を通した学習支援活動の推進を行った。
○ 館蔵資料のデジタル化や、各種コレクション、アーカイブの整備を進め、学内外への発信を行った。

4. 国際化の推進 P. 38

○「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(旧グローバル人材育成推進事業)」の補助対象最終年度を迎えるに当たり、各種数値目標の達成に向けた取り組みを実施した。
○ 海外協力機関の拡大を目指し、新たにビリニュス美術大学(リトアニア)と協定締結を行った。

5. 学生支援の充実・強化 P. 39

○「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行に伴い、支援体制の整備を行った。
○ 就職・進路支援として、学生が積極的に就職活動に取り組むことができるよう、就職ガイダンスをはじめとする各種ガイダンスを実施した。

6. 研究支援・社会連携推進、美術教育の普及、美術文化の振興 P. 40

○ 科学研究費補助金の申請・採択件数の増加を図り、スタッフの研修参加、間接経費の活用等を行った。
○ 産官学共同・委託研究の数と質の向上に向けた仕組みづくり等を進めた。
○ 美術教育普及・振興を図るワークショップ等に取り組んだほか、本学社会連携活動の学内外周知のためのワークショップ発表会等を実施した。

7. 広報活動の強化 P. 40

○ 大学webサイトにおいて、美術・デザイン領域の多様さと教員・卒業生作品を紹介する特設サイト「MAUREKA」の英語版を作成した。
○ 6月、8月のオープンキャンパスや、学生広報局によるミニオープンキャンパス「ムサビュー」の実施に加え、新たに高等学校を本学に招待する卒業制作展ツアーを実施した。

8. 組織力の強化 P. 41

○ 教員組織の弾力化と教育力の強化を図るため、人事諸制度の制定及び改正を行った。
○ IRチームを設置し、IR推進会議のもとにグループ横断型プロジェクトを設置し、それぞれ検討・推進を行った。

9. その他の主な取組 P. 41

1. 教育研究組織の改編等

武蔵野美術大学

(1) 昨年度に引き続き、全学的な会議体「新構想会議」において、通学、通信、大学院における教育研究組織改編の議論を行った。

(2) 武蔵野美術大学教育改革助成制度を設け、教育の質的向上のための助成を行い、カリキュラムや教材開発、教育方法の工夫改善等、教育改革に資する取組の推進を図った。

武蔵野美術学園

教育責任を考慮しつつ、平成29年度末(平成30年3月31日)閉園への着実な手続きを実施した。

2. 教育環境充実に向けたキャンパス整備

都心キャンパス

本学全体の今後の様々な教育展開の可能性を展望しうる都心キャンパスの候補地について、検討を進めた。

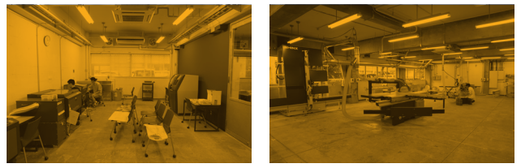
鷹の台キャンパス

(1) 平成27年度に終了した北キャンパスの整備工事に続き、平成28年度は、小平市が実施する都市計画道路3・3・3号線築造工事の進捗に合わせて、南キャンパス道路境界の植栽移設及び外構工事を実施した。また、上記工事により解体撤去された危険物庫を工房3北側に建設した。

(2) 都市計画道路小平3・3・3号線の工事が終了し、南・北キャンパスとして公道により完全に分断されたが、学生・教職員の安全確保・利用促進のため、地下通路の愛称を募集し、学生・教職員による応募・投票の結果、「ガレリア」に決定した。今後は、学生達のキャンパス間の往来状況を注視し、ガレリアの利用と併せて安全に往来できるように対策していく必要がある。

14号館がある北キャンパスと南キャンパスを結ぶ地下通路「ガレリア」

(3) 8号館1階西側を改修し、全学対象の学修支援・教育研究の場とする(仮称)工作センターについては、運営方法や施設整備について協議を重ね、平成29年度初旬の開設に向けて施設改修工事に着手した。



8号館1階の「工作センター(仮称)」

(4) 既存建物の老朽化対応については、大規模改修として5A号館の外壁補修第3期工事や1号館の空調・照明設備の省エネ更新工事を実施した。5A号館の大規模改修は、計画の最終年度となり、第3期工事をもって全て終了した。また、バリアフリー対応として1号館には車いす対応の階段昇降機を設置した。今後も大規模改修やバリアフリー対応工事を順次計画、実施していく。

新宿サテライト・三鷹ルーム

新宿サテライトを平成29年3月31日に閉鎖することを決定し、JR中央線・総武線「三鷹」駅北口より徒歩4分の場所に、法人や大学、各研究単位主催による発表や公開講座等での利用、通信教育課程における週末スクーリングの教室として「武蔵野美術大学三鷹ルーム」(通信教育課程三鷹教室)を平成29年4月に開設することとした。

「武蔵野美術大学三鷹ルーム」(通信教育課程三鷹教室)

3. 美術館・図書館機能の充実

美術館では年間10回、民俗資料室では2回の展覧会を開催し、延べ70,000人を超える入場者があった。美術館では展示関連のイベントの他、公開型ワークショップや多摩地区の小中学校他との連携プログラムを開催し、当館の活動を具体的に社会に発信することに努めた。

平成28年度に美術館で開催した展覧会

平成28年4月4日(月)～4月29日(金・祝)
『平成27年度 武蔵野美術大学 造形学部卒業制作・大学院修了制作 優秀作品展』

平成28年5月23日(月)～8月10日(水)、8月20日(土)、21日(日)
『GROUND 2　絵画を語る―見方を語る』

平成28年5月23日(月)～8月10日(水)、8月20日(土)、21日(日)
『平面を超える絵画：インスタレーションと日本画的感性』

平成28年5月23日(月)～8月10日(水)、8月20日(土)、21日(日)
『所蔵品展―絵画と彫刻をめぐる抽象表現』
※7月4日(月)から一部作品を展示替え

平成28年9月5日(月)～10月2日(日)
『小井土滿展―鉄水墨』

平成28年9月5日(月)～11月12日(土)
『ムサビのデザインVI：みんなのへや』

平成28年9月5日(月)～11月12日(土)
『あかり／AKALI デザインされた日本の光』

平成28年10月17日(月)～11月12日(土)
『鈴木久雄―彫刻の速度』

平成28年11月25日(金)～12月22日(木)
『JOSHUTEN 武蔵野美術大学助手研究発表 2016』

平成28年11月25日(金)～12月22日(木)
『はじまりは石―永井研治』

平成28年度に民俗資料室で開催した展覧会

平成28年5月23日(月)～7月9日(土)
『民俗資料室ギャラリー展示(22)絵馬―「描く」「祈る」かたち』

平成28年10月17日(月)～11月12日(土)
『民俗資料室ギャラリー展示(23)面(めん／つら)―民俗資料にみる顔の表現』

今年度、図書館には約140,000人、イメージライブラリーには約28,000人の利用者を迎えた。また所蔵品を活用し「研究・授業特別閲覧室」や「研究用映像視聴室」等の館内施設で行われた授業は、年間でのべ70コマを数え、本学の教育、研究活動に大きく寄与した。また、図書館では入館者とは別に年間で約10,000人の学外からの見学希望者を受入れたが、このうち約1,500人は海外からの来訪であった。
また館蔵資料のデジタル化と各種コレクション、アーカイブの整備に関しては、平成18年に当館に寄贈された中村とうようコレクションはその全貌を「中村とうようコレクション総合目録」に、また平成20年に寄贈された大辻清司コレクションのうちプリント作品群を「大辻清司　武蔵野美術大学 美術館・図書館 所蔵作品目録」として一冊の冊子に編纂し、学内外へ発信することができた。

左から「大辻清司　武蔵野美術大学 美術館・図書館 所蔵作品目録」「中村とうようコレクション総合目録」

造形研究センターについては、平成25年度文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業において採択された第1プロジェクト「近現代建築資料のデジタル・アーカイブ化と、その利活用の手法研究」及び第2プロジェクト「生活デザインのデジタル・アーカイブ化と、その生活文化空間の総合的研究への応用」を推進し、事業最終年度となる平成29年度に開催する成果発表のための展覧会に向けて準備を進めた。また、平成26年度同事業において採択された第3プロジェクト「日本近世における文字印刷文化の総合的研究」を推進した。
また、前年度に続いて文化庁「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」を受託し、プロダクト・デザインに関わる拠点としてアーカイブ手法の検討、データベースの管理・運用・利活用の調査研究、ネットワークの構築を推進した。

4. 国際化の推進

「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(旧グローバル人材育成推進事業)」にかかる取組として、以下のことを実施した。

(1) 事業推進のための海外協力機関の拡大を目指し、協定締結候補校をリストアップ、交渉を行い、新たにビリニュス美術大学(リトアニア)と協定締結し、計33校となった。
(2) SPOSAD(台湾政府留学生プログラム)ID・グラフィック部門の留学生を1年間各1名受け入れた。グラフィック部門は初めての受け入れ。
(3) 英語による学科別専門科目を、47科目(前期・後期)とした(「本年度開講せず」を含む)。
(4) グローバルコンテンツのアーカイブを、学生に貸し出しできるシステムを構築した。
(5) 英語履修者に対しプレースメントテストを実施した。
(6) TOEFL ITPテストの学内受験を年4回実施した。
(20) 海外インターンシップを実施し、米国・シアトル(5つの研修先、6名参加)およびベトナム・ホーチミン(ひとつの研修先、参加者1名)に夏季休業期間中に派遣した(期間は約1ヶ月)。

(8) 学生のグローバル志向を高めるための各種施策として、卒業生など海外留学経験者の生のアドバイスを聞くランチトークを9回開催し、のべ255名が参加した。
(9) 自らの言葉で自身の作品を海外に向け発信するのに必要な英語力とスキルを身に付けることを目的とし、美術・デザインに関するプレゼンテーション能力の向上を目指す英語講習会を2回(8月・3月計7日間)開催、33名の参加があった。
(10) 海外からの公式訪問を26件受けた。
(11) 国際交流プロジェクトを5本実施し、45名の学生が単位取得した。
(12) 校友会との連携によりアラムナイ・グローバル・サポーター制度が発足4年目で、14名の卒業生より支援の登録を得ている。
(13) 小平市国際交流協会理事会に参加(3月)
(14) 説明会等の実施(協定留学説明会・5月、英語学習ガイダンス・6月)
(15) 「留学生とお茶会」を一般に開放して実施(8月)
(16) 「協定校プロジェクトとしてロイヤル・メルボルン工科大学から訪問教授と学生が渡日しワークショップ等を行った(10月)。
更に平成29年3月にはメルボルンに本学教員と学生が渡り、アウトバウンド・セッションを行った。
(17) 早稲田大で行われたGGJ EXPOに参加した(12月)。
(18) 教員のFD語学研修を4名、グローバル海外研修を5名に実施した。
(19) 平成28年度の語学外国短期留学海外語学研修で、パリに2名(8月、約1ヶ月)、イギリスに9名(2月-3月、約3週間)の学生を派遣した。
(20) 国際ワークショップ「Global Design Initiative (GDI)」の第3回GDI in MAU 2017を実施した。(3月)

平成26年度から、シンガポール、ドイツ、台湾、イギリスの協定校4校と本学が協働、持ち回りで主催する国際的な大学横断型連携デザインワークショップ「Global Design Initiative (GDI)」。
平成29年は本学がホスト校として、小平市をフィールドとしたワークショップを実施

(21) 訪問教授9名を招聘した。
(22) 『グローバルキャリアデザイン』科目を193名が履修、167名単位取得した。
(23) 交換留学先の追加　ロンドン芸術大学CSMと平成29年度～交換開始の覚書締結。

5. 学生支援の充実・強化

(1) 更なるキャリア支援対応のため、平成29年3月にキャリアセンターを整備し、学生との面談スペースの拡充、ポートフォリオ閲覧スペースを設置した。
(2) 平成28年4月1日から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されたことに伴い、障害者学修支援の基本方針を定め、合理的配慮の考え方に基づいたサポート体制を構築し、総合窓口・検討機関・承認機関といった支援決定に至るまでの一連の手続きについて整備を行った。
(3) 学生へのあらたな経済的支援策として、「武蔵野美術大学ワークスタディ実施要領」を定め、平成29年度より実施することとなった。
(4) 聴覚障害を持つ学生に対するノートテイク支援を行った。
(5) 学生の就職に対する意識を早期に喚起させ、積極的に就職活動に取組むことができるように、3年生の前期より、就職ガイダンスをはじめ、ポートフォリオ指導プログラムやインターンシップガイダンスなど各種ガイダンス(総合職講座、作家支援プログラム、Uターン・Iターン講座)を実施した。

ポートフォリオ指導プログラムではポートフォリオの指導会や展示会を通じ、ポートフォリオ作成の実践を重ねるなかで、社会に通用する表現力を磨く

6. 研究支援・社会連携推進、美術教育の普及、美術文化の振興

1　研究支援の推進

(1) 科学研究費補助金について、平成28年度は新規採択6件・転入1件・継続7件の合計14件となった(23ページ参照)。平成28年度の更なる科研費申請・採択に向けて、スタッフの研修参加、間接経費の活用等を行った。

(2) 産官学共同・委託研究を19件実施した(25ページ参照)。そのうち市区町村からの依頼8件、企業からの依頼は11件であった。昨年度に引き続き、研究の数と質の向上に向けて、契約関連および知財管理・活用の仕組みづくりや特許インセンティブ獲得方法の検討を進めた。また、今年度新規開設した造形総合Ⅱ類科目「産官学共同プログラムⅠ・Ⅱ」が実施され、産官学共同・委託研究を含む授業として初めて単位が付与された。

2　社会連携の推進、美術教育の普及、美術文化の振興

(1) 公開講座「Explore the Design」(全3回)を開催した(26ページ参照)。また、8月には「Midtown ♡ Summer 2016」、「東京ミッドタウン・デザインハブキッズウィーク 2016」に参加し、本学企画としてワークショップを全4回実施した。

(2) 8月に65歳以上を対象としたシニアアートプログラム 2016「版画(リトグラフ)で絵手紙を作ろう」を実施した。

「シニアアートプログラム 2016」の様子。油絵学科版画専攻、通信教育課程油絵学科版画コース教授の指導のもと、ハガキサイズの絵手紙をリトグラフで制作

(3) 11月「GOOD DESIGN EXHIBITION 2016」期間中に、「グッドなデザイン・ラウンジ」を開催し、展示を行った。

(4) 第51回企画展「デザインの理念と形成：デザイン学の50年」を11月に開催した。

(5) αMプロジェクトについて、千代田区東神田のgallery αMにおいて、「トランス／リアル―非実体的美術の可能性」を年間7回の企画展として開催した。

(6) 本学独自の活動として全国各地の学校や美術館で展開する「旅するムサビ・プロジェクト」や小・中学生を対象とするワークショップ等に取り組んだ。

(7) 本学社会連携活動の学内外周知のため、「ムサビのアクティブ・ラーニング―ワークショップ33の事例」を開催した。

(8) 武蔵野美術大学校友会及び同愛知支部と共催で、地域フォーラム「アート＆デザイン2016愛知」を開催した(26ページ参照)。

(9) 7月に発足した全国芸術系大学コンソーシアムに参画し、「人材育成型アーツプロジェクト」、beyond2020ロゴマーク募集、文化庁での展示「Arts in Bunkacho―トキメキが、爆発だ―」に協力した。

(10) 地域社会や産業界等、学外の参画を得て客観的な視点を取り入れ、教育研究水準の向上や活性化に努めるため、小平市役所市民協働・男女参画推進課、株式会社ブリヂストン、公益社団法人日本広告制作協会に協力いただき、本学の教育・研究活動や社会連携について意見交換会を実施した。

(11) 小学校・中学校(美術)・高等学校(美術、工芸)のうち、いずれかの免許状を有する現職教員などを対象とした免許状更新講習を実施した。

7. 広報活動の強化

(1) 大学webサイトにおいて、美術・デザイン領域の多様さと活躍する教員・卒業生作品を紹介する特設サイト「MAUREKA」の英語版を作成した。

(2) ブランディング検討会議のもと、外部会社の協力を得て、本学のブランド戦略構築について検討を行い、広報ポリシー案をまとめた。

英語版が新たに公開された特設サイト「MAUREKA(マウリカ)」

(3) 本学の学生募集活動の中核である6月、8月のオープンキャンパスや、学生で構成される学生広報局によるミニオープンキャンパス「ムサビュー」の実施に加え、新たな企画として高等学校を本学に招待し、卒業制作展ツアーを実施した。

(4) 高等学校へのアプローチを強化するため、入試チームと学生募集広報プロジェクトの参加メンバーで、高等学校258校に大学案内、ガイダンスを行った。

8. 組織力の強化

(1) 教員組織の弾力化と教育力の強化を図るため、人事諸制度の制定及び改正を行った。新規の制度としては、任期を5年以内とする、任期付専任教員制度及び任期付特別任用専任教員制度を設けた。また、平成29年度以降に採用される専任教員については定年を67歳に引き下げ、既に在籍している専任教員については、本人の希望により特別任用専任教員への変更を可能とする制度を設けた。

(2) 労働関係諸法令の改正に対応するべく、臨時勤務者に関する諸規則及び育児休業並びに介護休業に関する諸規則を改正した。

(3) 学校法人武蔵野美術大学内部監査規則に則り、経常費補助金及び公的研究費にかかる内部監査を実施し、監査の結果、指摘を受けた事項について被監査部署は改善措置を講じた。

(4) IRチームを設置し、グループ横断型プロジェクトとして、IR推進会議のもとに「改革総合プロジェクト」「エンロールメントマネジメントプロジェクト」「募集戦略プロジェクト」を設置し、それぞれ検討・推進を行った。「改革総合プロジェクト」では、本学で行われている教育の質的転換、地域発展、産業界・他大学等との連携、グローバル化などの取組を明確にし、教学改革を促進した。

9. その他の主な取組

1　教育研究関連の取組

(1) コンピュータ関連科目について、昨年度開講の基礎科目「情報表現Ⅰ・Ⅱ」開講に加え、スキルレベル上位の学生を対象とし、グラフィックデザイン・映像作品・3D造形を学修する「情報表現Ⅲ・Ⅴ・Ⅶ」を新たに開設した。

(2) 1年生を対象にした自校教育科目「ムサビ入門」、学術的文章作成を学修する「アカデミック・ライティング入門」を文化総合科目として新たに開設した。

(3) 内部質保証の観点から授業評価の結果を授業改善に繋げる制度的取組として、教育単位ごとに「授業評価結果に対する総評及び授業改善計画書」の作成を実施し、その結果を全学的な自己点検・評価の項目とした。

(4) 「新カリキュラムの検証」「学外における教育的諸活動の検討」「学科横断的な科目の運営に関する検討」を実施するため、造形総合専門委員会を廃止し、カリキュラム専門委員会を設置した。

(5) 教育的効果が期待される学外における諸活動を新たな科目として開設できるようガイドラインを設定・制度化を行い、「インターンシップ」「産官学共同プログラム」「国際交流プロジェクト」を授業科目とした。

(6) 次年度に向けた教育施策として、成績評価の客観性と厳格性の進展を図る「大学院における5段階評価」、学修環境の整備を目的とした「オフィスアワー制度」、単位制度の実質化を図る「CAP制度」の導入を検討・決定した。

(7) 多摩美術大学・女子美術大学・東京造形大学との「4美大教務事務連絡会」を本学主催で開催した。

(8) 「新カリキュラム4年間(2013～2016年度)の課題と新しい挑戦」をテーマに、全学研修会を実施した。

(9) 前期研究集会「開帳場研究 ―式典の空間、演劇の空間―」(堀尾幸男教授)、後期研究集会「札幌中島公園の《木下成太郎像》について」(黒川弘毅教授)を実施した。

(10) 情報教育環境整備のため、共用コンピュータ室のソフト更新及び購入を行った。

(11) 国内外のアーティストやデザイナー、研究者等を招き、課外講座を計72回実施した。(実施した講座名及び講師の一覧については、27ページ参照)

(12) 学生教育研究災害傷害保険(学研災)及び学生教育研究賠償責任保険(学研賠)への加入義務付けに加え、正課外の事故に対してより広範囲な補償が得られるよう、次年度新入生へ向け別途任意保険への加入を促した。

(13) 正課授業として「インターンシップⅠ・Ⅱ」を開設し、単位付与型のインターンシッププログラムを開始した。

(14) 通信教育課程の学生に対する進路・就職支援として、通信教育グループとの連携により、キャリアセンターが実施する一部のプログラムについて参加対象とした。また、夏季スクーリング期間中にキャリアカウンセラーによる面談および就職ガイダンスを実施した。

(15) 卒業生在籍企業を中心に年間100社を超える会社説明会を実施した。また、3年生・4年生向けに合同会社説明会を開催した(参加企業約200社)。

会社説明会の様子

2　入学試験関連の取組

(1) 編入学・転科試験において、新たに2年次編入学・転科試験を導入した。

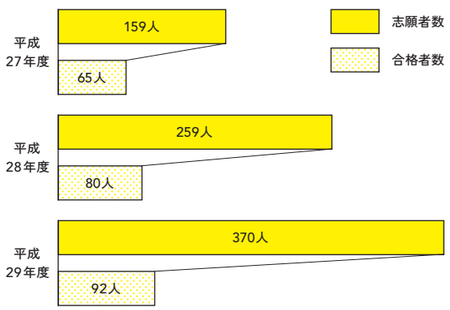
(2) 大学院修士課程、博士後期課程の準備課程として、また自身の研究領域を深める課程として、新たに学部、大学院、外国人それぞれの研究生制度を設け、試験を実施した。

(3) 一般入試において、「一般方式」「センターA方式」ではそれぞれ前年比1.2%の減、「センターB方式」では20%増となり、全体の志願者数は6,830名と昨年の6,762名と比較し、68名、1.0%の増加となった。

(4) 公募制推薦入学試験で、油絵学科版画専攻及び彫刻学科において公募制推薦入学試験後期を導入した。

(5) 外国人留学生特別入試、大学院修士課程入試においては、昨年度に続き中国からの留学希望者が増加したことで、大きく志願者を伸ばす結果となった。

過去3年間の外国人留学生特別入学試験結果

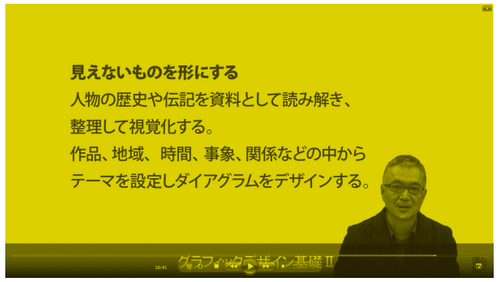


3　自己点検・評価の取組

第6期自己点検・評価委員会において「内部質保証」をテーマに議論を行い、「内部質保証のためのPDCAフロー」を作成した。その趣旨に基づき、「改革合同会議」を開催し、本年度の様々な点検・評価項目と改善経過を総括し、次年度の活動方針を確認した。

4　通信教育課程の取組

(1) 動画配信システムを利用したスクーリング補助プログラム(オンラインプラス)の実施を開始し、延べ2,973名が受講した。また、オンラインプラス実施科目については従来3日間(または6日間)で実施されていたスクーリングを2日間(または4日間)での実施とし、該当する科目のスクーリング受講者は前年比143名増となった。



オンラインプラスの動画より

(2) 学生へのカリキュラム体系の周知を目的としてカリキュラムマップを策定した。
(3) 入学生・編入学生の履修科目選択の参考となるべく、既存の科目の中から初学者の学習に適した推奨科目を選定し、『履修登録の手引き』にて周知した。
(4) 体験授業を組み合わせた入学相談会を増やし、多数の参加者を得た。また、初の試みとして4月に入学相談会を実施し、およそ40名の参加者を得た。

吉祥寺校で実施した体験授業を組み合わせた入学相談会の様子

(5) webサイトのレスポンシブ化を実施し、アクセス数が大幅に向上した。
(6) 新規の試みとして、JR中央線のトレインチャンネル、Google・Yahooディスプレイネットワークを利用したリスティング広告に出稿した。
(7) 2年次編入学生の既修得単位数の認定について、平成30年4月より施行すべく、課程規程の改正を実施した。

5　武蔵野美術学園の取組

(1) 学生募集について、週2日制を含む在籍者数は平成28年度4月次在学生数237名となり前年度より微増となった(トライアル受講生含む)。
(2) 平成28年度のオープンセミナーについては128講座を開講した。
(3) 6年目となるThe SIZE SIX展を開催し、出品料とオークション売上を、武蔵野市を通じて東日本大震災義援金として寄付した。出品作品は、学園生・大学卒業生・一般市民を含め168点となった。
(4) 9月にオープンキャンパス及び学園祭を同時開催した。
(5) 「井の頭100祭」に協力し、同祭に武蔵野美術学園学生ブースを設置、アート作品販売等により市民との交流を行った。

FINANCIAL SUMMARY

財務の概要

1. 経年比較

平成26年度以前の決算額は、平成27年度改正後の学校法人会計基準の様式に基づき、区分及び科目を組み替えて表示している。

(1) 貸借対照表

（単位：千円）

科目	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	本年度末
固定資産	41,406,404	42,960,822	44,718,223	44,882,267	44,870,269
流動資産	8,264,359	6,903,735	5,545,828	5,941,974	6,142,162
資産の部合計	49,670,764	49,864,557	50,264,051	50,824,241	51,012,430
固定負債	1,633,797	1,703,255	1,790,149	1,865,177	1,934,811
流動負債	4,170,952	3,807,542	3,710,653	4,270,840	2,746,215
負債の部合計	5,804,749	5,510,796	5,500,803	6,136,017	4,681,026
基本金	41,476,693	42,944,389	44,953,920	47,791,473	48,417,380
繰越収支差額	2,389,322	1,409,372	△ 190,672	△ 3,103,249	△ 2,085,975
純資産の部合計	43,866,014	44,353,761	44,763,248	44,688,224	46,331,404
負債及び純資産の部合計	49,670,764	49,864,557	50,264,051	50,824,241	51,012,430

収支計算書

(1) 資金収支計算書

（単位：千円）

科目		平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	本年度末
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,312,633	8,165,171	8,135,840	8,149,357	8,145,023
	手数料収入	216,170	195,443	206,116	208,420	213,338
	寄付金収入	78,822	50,538	60,102	56,742	35,520
	補助金収入	883,281	932,250	789,641	835,490	906,075
	資産売却収入	824,339	0	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	80,161	77,127	88,545	112,972	128,804
	受取利息・配当金収入	33,781	60,002	106,083	49,334	11,760
	雑収入	233,674	182,397	89,321	101,621	1,658,925
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	3,093,498	1,969,067	1,939,761	1,990,529	2,046,593
	その他の収入	470,980	384,488	357,558	3,183,865	380,116
	資金収入調整勘定	△ 2,238,575	△ 2,202,321	△ 2,060,993	△ 2,023,393	△ 3,366,513
	前年度繰越支払資金	8,150,509	7,741,087	6,317,261	5,093,555	5,546,227
	収入の部合計	20,139,274	17,555,249	16,029,234	17,758,492	15,705,868
支出の部	人件費支出	4,790,932	4,657,096	4,604,853	4,566,612	4,588,248
	教育研究経費支出	2,654,430	2,533,822	2,492,314	2,912,212	2,532,089
	管理経費支出	831,170	788,619	780,628	758,699	910,995
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	319,983	1,457,131	2,165,359	3,898,239	509,534
	設備関係支出	248,904	288,210	263,827	447,975	263,575
	資産運用支出	3,791,729	1,127,344	544,007	179,190	748,114
	その他の支出	750,318	987,295	645,123	538,470	1,061,540
	資金支出調整勘定	△ 989,280	△ 601,529	△ 560,432	△ 1,089,132	△ 629,348
	翌年度繰越支払資金	7,741,087	6,317,261	5,093,555	5,546,227	5,721,121
	支出の部合計	20,139,274	17,555,249	16,029,234	17,758,492	15,705,868

(2) 事業活動収支計算書

（単位：千円）

科目			平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	本年度末
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金収入	8,312,633	8,165,171	8,135,840	8,149,357	8,145,023
		手数料	216,170	195,443	206,116	208,420	213,338
		寄付金	79,018	50,538	60,102	56,742	36,674
		経常費等補助金	880,952	834,441	771,302	773,406	852,044
		付随事業収入	80,161	77,127	88,545	112,972	128,804
		雑収入	233,674	182,397	89,321	101,167	1,657,122
		教育活動収入計	9,802,608	9,505,118	9,351,226	9,402,064	11,033,004
	事業活動支出の部	人件費	4,605,670	4,644,366	4,588,832	4,551,219	4,579,627
		教育研究経費	3,706,650	3,525,324	3,506,341	3,881,707	3,748,219
		管理経費	948,121	899,227	897,763	875,880	1,060,254
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	9,260,440	9,068,917	8,992,936	9,308,806	9,388,099
	教育活動収支差額		542,169	436,201	358,289	93,257	1,644,905
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	33,781	60,002	106,083	49,334	11,760
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	33,781	60,002	106,083	49,334	11,760
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額		33,781	60,002	106,083	49,334	11,760
経常収支差額			575,950	496,203	464,373	142,591	1,656,665
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	722,694	0	0	0	0
		その他の特別収入	9,454	110,126	40,517	99,618	82,433
		特別収入計	732,148	110,126	40,517	99,618	82,433
	事業活動支出の部	資産処分差額	211	37,342	14,402	235,939	14,160
		その他の特別支出	81,296	81,241	81,000	81,294	81,758
		特別支出計	81,507	118,583	95,402	317,233	95,918
	特別収支差額		650,641	△ 8,457	△ 54,885	△ 217,615	△ 13,485
基本金組入前当年度収支差額			1,226,591	487,746	409,487	△ 75,024	1,643,181
基本金組入額合計			△ 111,533	△ 1,467,696	△ 2,009,758	△ 3,096,617	△ 644,907
当年度収支差額			1,115,058	△ 979,950	△ 1,600,271	△ 3,171,641	998,274
前年度繰越収支差額			871,985	2,389,322	1,409,372	△ 190,672	△ 3,103,249
基本金取崩額			402,279	0	227	259,063	19,000
翌年度繰越収支差額			2,389,322	1,409,372	△ 190,672	△ 3,103,249	△ 2,085,975

（参考）

事業活動収入計	10,568,537	9,675,246	9,497,826	9,551,015	11,127,197
事業活動支出計	9,341,946	9,187,500	9,088,338	9,626,039	9,484,017

2. 主な財務比率比較

事業活動収支計算書及び貸借対照表から、本学の過去5年間の財務比率を計算し下表に示した。なお、平成26年度以前の比率は、平成27年度改正後の学校法人会計基準の様式に基づき、区分及び科目を組み替えた金額で算出している。また、「評価」欄は日本私立学校振興・共済事業団による評価を、「芸術系学部平均」欄は芸術系19法人の平成27年度の平均値を表したものである。ただし、新会計基準への組み替えにおいて、＊経常収入は帰属収入、＊経常支出は消費支出で算出している。(いずれも日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』平成28年度版による。)

(1) 事業活動収支計算書関係財務比率

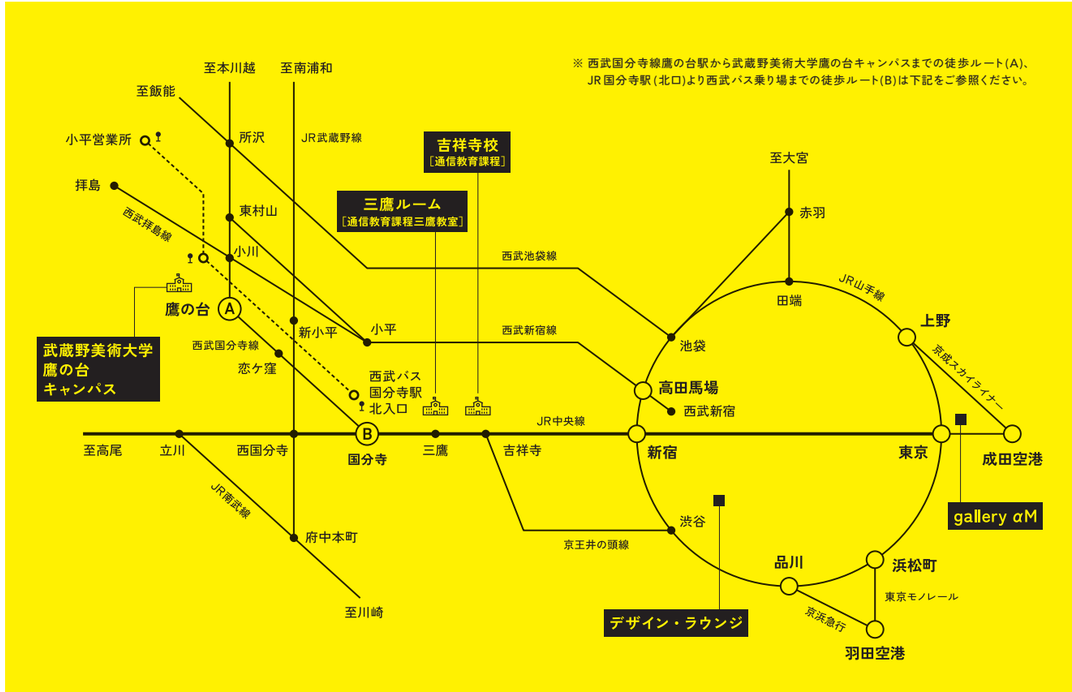
比率	算式 (×100)	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	本年度	芸術系学部平均
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入計	△	11.6%	5.0%	4.3%	△ 0.8%	14.8%	△ 6.4%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / ＊経常収入	～	84.5%	85.4%	86.0%	86.2%	73.7%	77.4%
寄付金比率	寄付金 / 事業活動収入計	△	0.8%	0.6%	0.9%	1.0%	0.3%	1.0%
経常寄付金比率	教育活動収支の寄付金 / ＊経常収入	△	0.8%	0.5%	0.6%	0.6%	0.3%	0.5%
補助金比率	補助金 / 事業活動収入計	△	8.4%	9.6%	8.3%	8.7%	8.1%	11.0%
経常補助金比率	教育活動収支の補助金 / ＊経常収入	△	9.0%	8.7%	8.2%	8.2%	7.7%	9.9%
人件費比率	人件費 / ＊経常収入	▼	46.8%	48.6%	48.5%	48.2%	41.5%	56.5%
教育研究経費比率	教育研究経費 / ＊経常収入	△	37.7%	36.9%	37.1%	41.1%	33.9%	34.0%
管理経費比率	管理経費 / ＊経常収入	▼	9.6%	9.4%	9.5%	9.3%	9.6%	11.0%
借入金等利息比率	借入金等利息 / ＊経常収入	▼	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
基本金組入率	基本金組入額 / 事業活動収入計	△	1.1%	15.2%	21.2%	32.4%	5.8%	14.0%
減価償却額比率	減価償却額 / ＊経常支出	～	11.7%	11.6%	12.0%	11.2%	14.3%	12.6%
人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	▼	55.4%	56.9%	56.4%	55.8%	56.2%	73.0%
基本金組入後収支比率	事業活動支出 / 事業活動収入 - 基本金組入額	▼	89.3%	111.9%	121.4%	76.1%	90.5%	123.7%
経常収支差額比率	経常収支差額 / ＊経常収入	△	5.9%	5.2%	4.9%	1.5%	15.0%	△ 1.7%
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 / 教育活動収入計	△	5.5%	4.6%	3.8%	1.0%	14.9%	△ 7.1%

(2) 貸借対照表関係財務比率

比率	算式 (×100)	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	本年度末	芸術系学部平均
純資産構成比率	純資産 / 負債＋純資産	△	88.3%	88.9%	89.1%	87.9%	90.8%	89.5%
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額 / 負債＋純資産	△	4.8%	2.8%	△ 0.4%	△ 6.1%	△ 4.1%	△ 8.2%
固定比率	固定資産 / 純資産	▼	94.4%	96.9%	99.9%	100.4%	96.8%	97.8%
固定長期適合率	固定資産 / 純資産＋固定負債	▼	91.0%	93.3%	96.1%	96.4%	93.0%	92.2%
固定資産構成比率	固定資産 / 総資産	▼	83.4%	86.2%	89.0%	88.3%	88.0%	87.5%
有形固定資産構成比率	有形固定資産 / 総資産	▼	52.4%	53.4%	55.6%	61.0%	59.7%	55.8%
特定資産構成比率	特定資産 / 総資産	△	19.6%	20.4%	21.1%	21.1%	28.0%	20.4%
流動資産構成比率	流動資産 / 総資産	△	16.6%	13.8%	11.0%	11.7%	12.0%	12.5%
流動比率	流動資産 / 流動負債	△	198.1%	181.3%	149.5%	139.1%	223.7%	246.3%
退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産 / 退職給与引当金	△	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	73.0%
固定負債構成比率	固定負債 / 負債＋純資産	▼	3.3%	3.4%	3.6%	3.7%	3.8%	5.5%
流動負債構成比率	流動負債 / 負債＋純資産	▼	8.4%	7.6%	7.4%	8.4%	5.4%	5.1%
総負債比率	総負債 / 総資産	▼	11.7%	11.1%	10.9%	12.1%	9.2%	10.5%
負債比率	総負債 / 純資産	▼	13.2%	12.4%	12.3%	13.7%	10.1%	11.8%
積立率	運用資産 / 要積立額	△	139.6%	130.2%	119.9%	105.8%	103.9%	92.8%

［評価］　△高い値が良い　▼低い値が良い　～どちらともいえない
運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券
要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋2号基本金＋3号基本金

路線図



最寄り駅からのアクセス(鷹の台キャンパス)

A 西武国分寺線「鷹の台」駅下車 徒歩18分
◎ JR中央線から「国分寺」駅乗換、「東村山」行(2駅目)
◎西武新宿線から「東村山」駅乗換、「国分寺」行(2駅目)

B 西武バス「武蔵野美術大学」停留所 下車すぐ
◎ JR中央線「国分寺」駅北口徒歩3分／「国分寺駅北入口」停留所より「武蔵野美術大学」行、または「小平営業所」行に乗車(バス所要時間:約20分)

学校法人武蔵野美術大学 2016年度ファクトブック

発行	学校法人武蔵野美術大学
	〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
発行日	2017年8月1日
企画・編集	武蔵野美術大学法人企画グループIRチーム
	TEL: 042-342-6038

制作

アートディレクション	平林奈緒美
デザイン	星野久美子
編集・ライティング	成田敏史

印刷	Butter Inc.

大学全体の活動や最新の情報については、大学webサイトをご参照ください。
http://www.musabi.ac.jp

本冊子の図版および文章の無断転載を禁ずる。

Copyright © 2017 Musashino Art University

All Rights Reserved.

(2016) MAU FACTBOOK MUSASHINO ART UNIVERSITY

Since the earliest days of Musashino Art University, our mission has been to train professionals equipped with a good general education and of superlative character for careers in various fields of the formative arts, focusing primarily on the realms of fine arts and design. To achieve this, the University is deeply mindful of the need to arm students with a combination of generalist and specialist skills, and remain faithful to our founding spirit of providing art education that allows students to function with true freedom as human beings, and producing artists of well-rounded erudition.

—

No part of this book may be reproduced in any manner or transmitted by any means whatsoever, electronic or mechanical (including photocopy, recording, internet posting, or any other information storage and retrieval system) without the prior written permission of the publisher.

August 2017 Printed in Tokyo, Japan

http://www.musabi.ac.jp

W210mm H297mm format / 48 pages